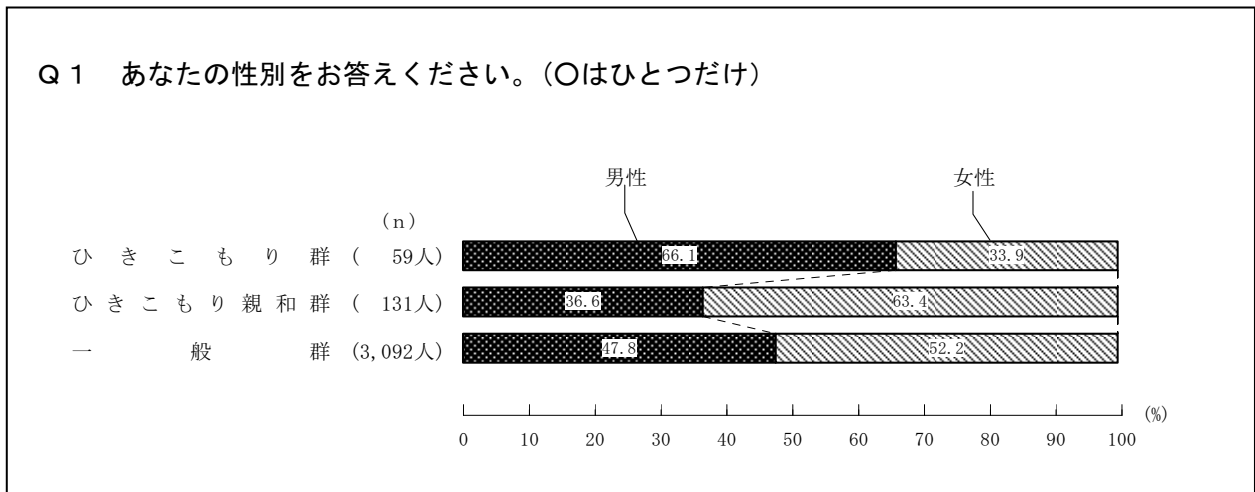


Ⅲ 調査の結果

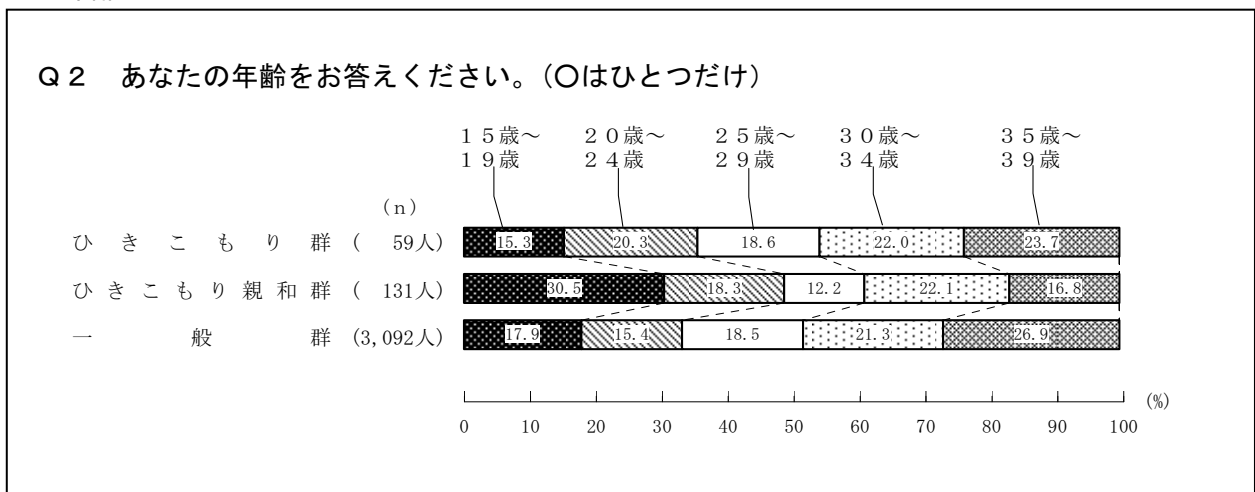
Ⅱ 調査の結果

1 性別



回答者の性別は、ひきこもり群では、「男性」66.1%、「女性」33.9%、ひきこもり親和群では、「男性」36.6%、「女性」63.4%、一般群では、「男性」47.8%、「女性」52.2%であった。ひきこもり群は男性が多く、ひきこもり親和群は女性が多い傾向が見られた。

2 年齢



回答者の年齢は、ひきこもり群では、「15歳～19歳」15.3%、「20歳～24歳」20.3%、「25歳～29歳」18.6%、「30歳～34歳」22.0%、「35歳～39歳」23.7%であった。

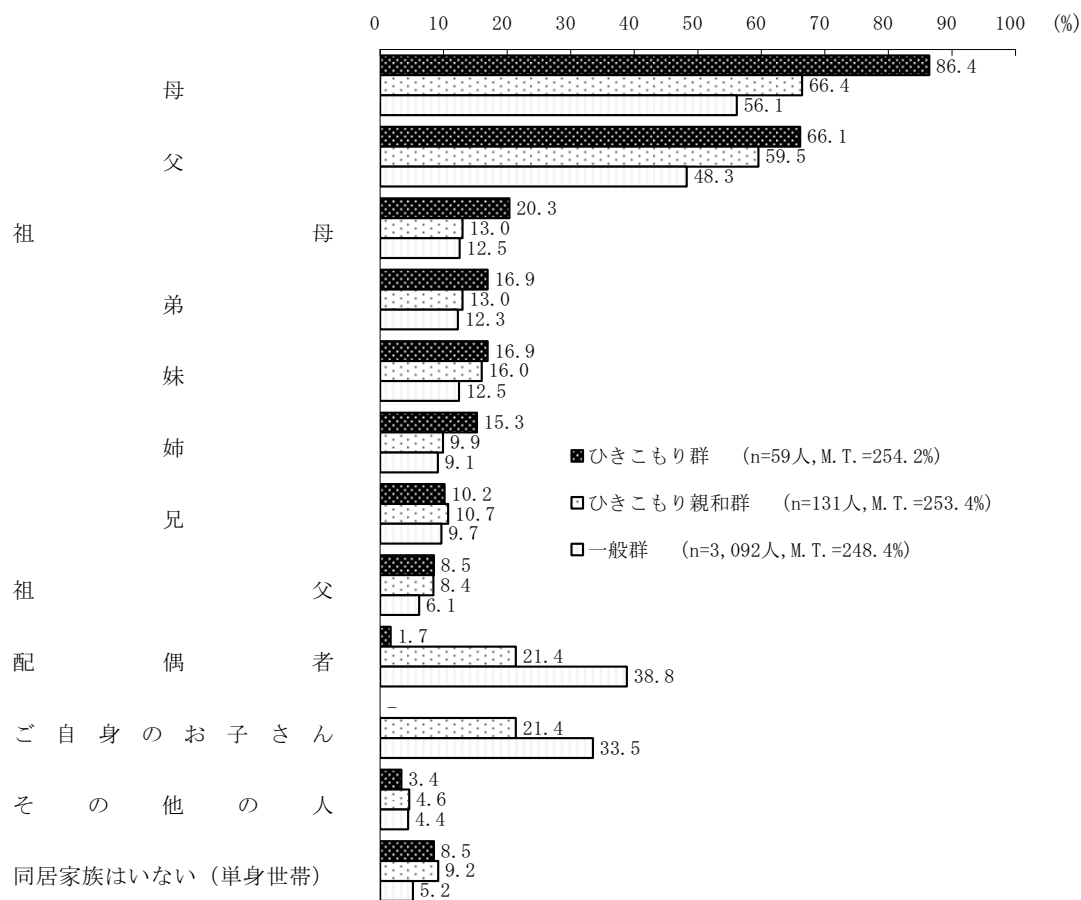
ひきこもり親和群では、「15歳～19歳」30.5%、「20歳～24歳」18.3%、「25歳～29歳」12.2%、「30歳～34歳」22.1%、「35歳～39歳」16.8%であった。

一般群では、「15歳～19歳」17.9%、「20歳～24歳」15.4%、「25歳～29歳」18.5%、「30歳～34歳」21.3%、「35歳～39歳」26.9%であった。

特に、ひきこもり親和群は10代を中心とした若い年齢層に多い傾向が見られた。

3 同居家族

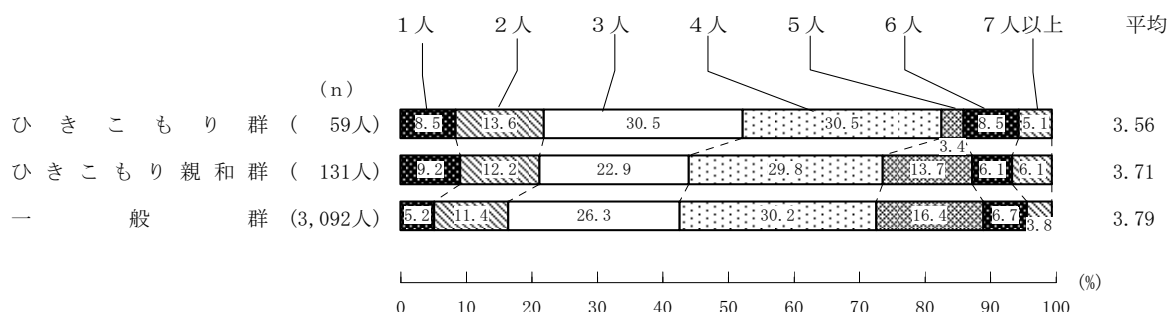
Q3 現在あなたと同居しているご家族に○をつけてください。(○はいくつでも)



同居家族について聞いたところ、ひきこもり群とひきこもり親和群は両親と同居していることが多い(ひきこもり群、ひきこもり親和群で「母」と同居しているのはそれぞれ86.4%、66.4%。「父」と同居しているのは66.1%、59.5%)。また、配偶者や本人の子どもとの同居率は低く、未婚の者が多いと考えられる。

4 同居人数

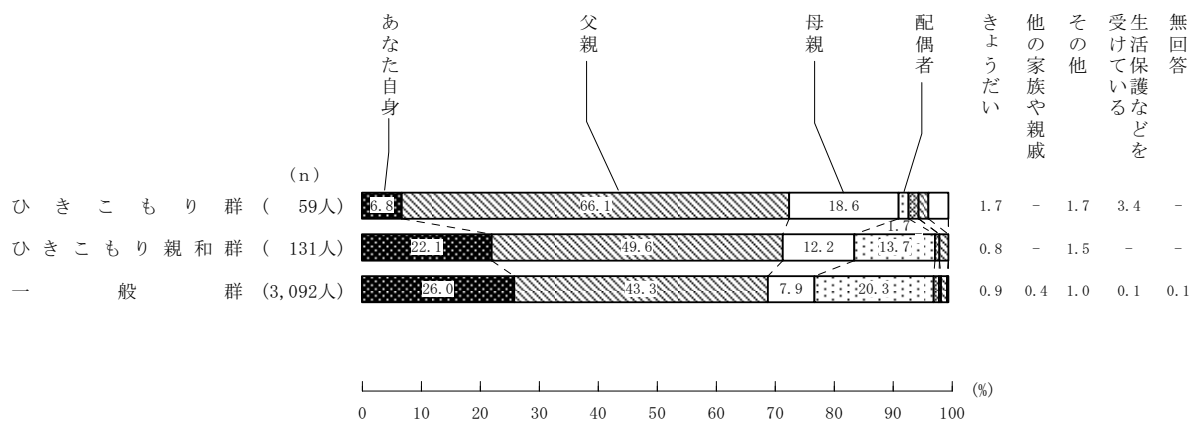
Q4 現在同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。
(数字で具体的に)



同居人数は、ひきこもり群、ひきこもり親和群、一般群とも「4人」、「3人」が多くなっている。

5 主生計者

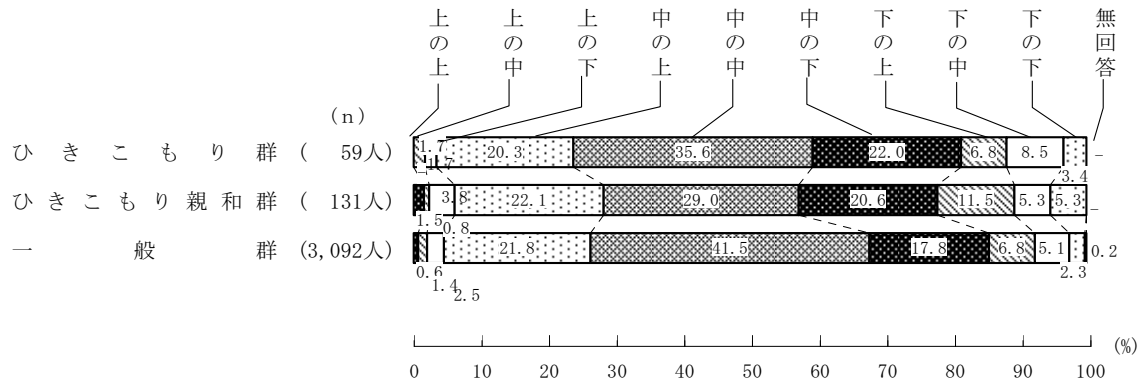
Q5 あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(〇はひとつだけ)



主な生計維持者を聞いたところ、各群とも「父親」が最も多かった。次いで多かったのは、ひきこもり群では「母親」で、ひきこもり親和群と一般群では「あなた自身」であった。特に、ひきこもり群の世帯の大部分は両親のいずれかが生計を立てており、本人が生計を担っていることは少ない。しかし、本人が生計を立てている世帯や生活保護を受けている世帯も見られ、ひきこもりのすべてが生活を親に頼っているとはいえない。

6 暮らし向き

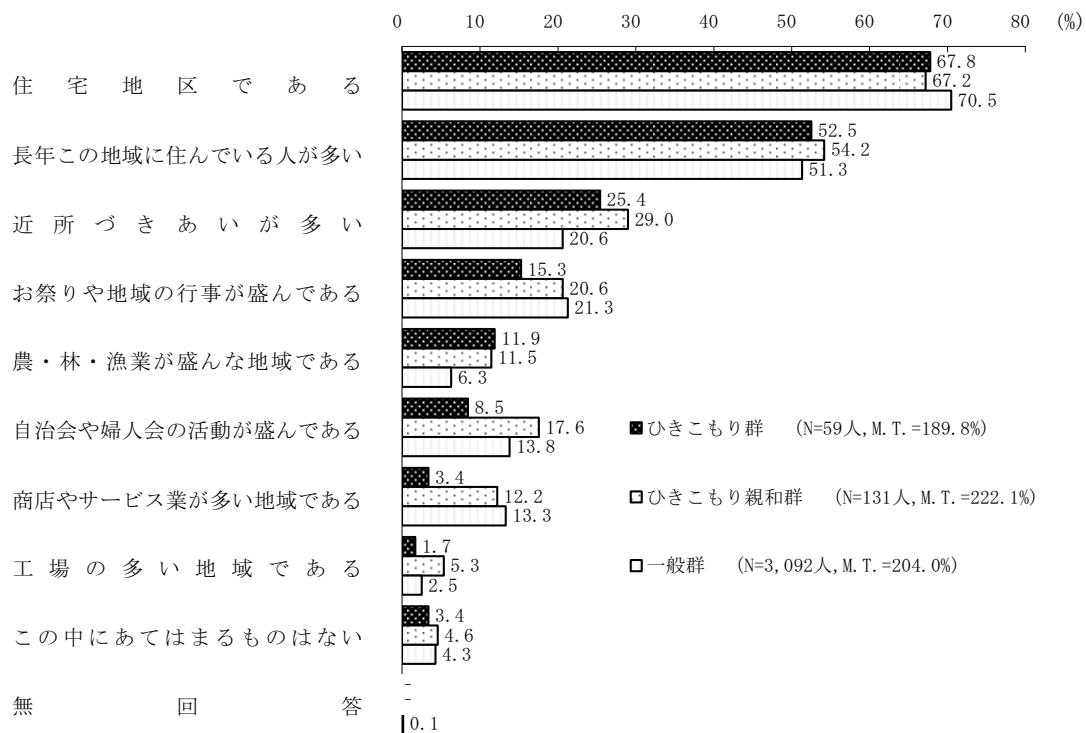
Q6 あなたの家の暮らし向き（衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準）は、世間一般と比べてみて、上の上から下の下までのどれにあたると思われますか。あなたの実感でお答えください。（○はひとつだけ）



暮らし向きについて聞いたところ、各群とも「中の中」が最も多く、「中の上」「中の下」を合わせた『中』は7割を越えている。

7 地域の状況

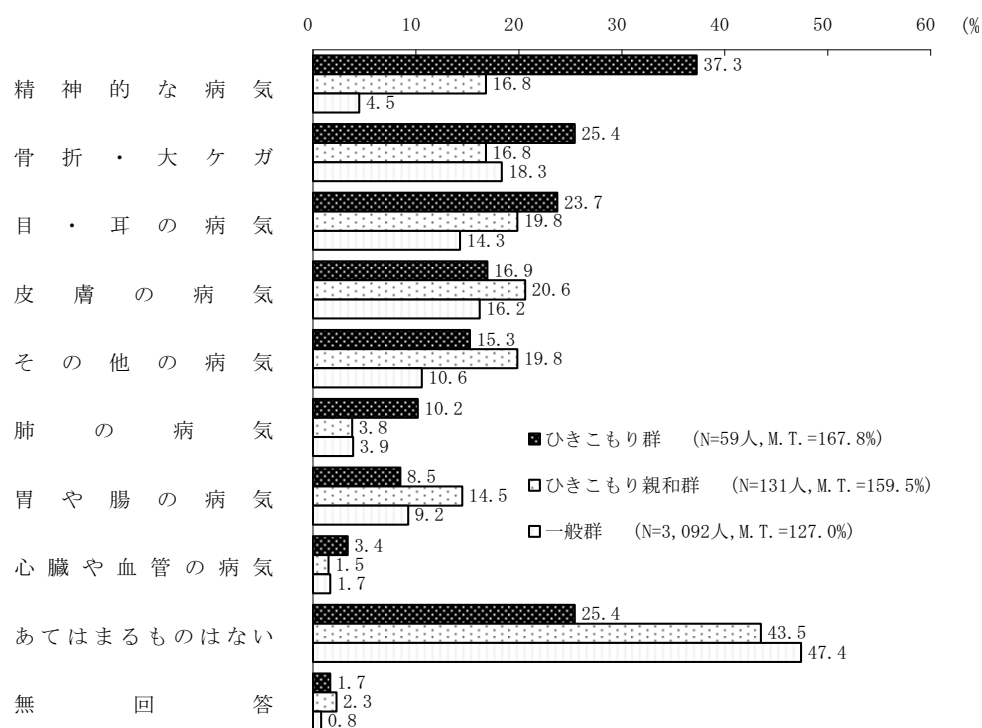
Q7 あなたがお住まいの地域にあてはまるものにすべて○をつけてください。
(○はいくつでも)



地域の状況について聞いたところ、各群とも「住宅地区である」が最も多く、次いで「長年この地域に住んでいる人が多い」となっていた。ひきこもり親和群は、一般群と比較して農・林・漁業が盛んで近所づきあいが多い地域に住んでいることが多い。

8 通院・入院経験のある病気

Q8 これまでに以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。通院・入院したことのある病気に○をつけてください。(○はいくつでも)

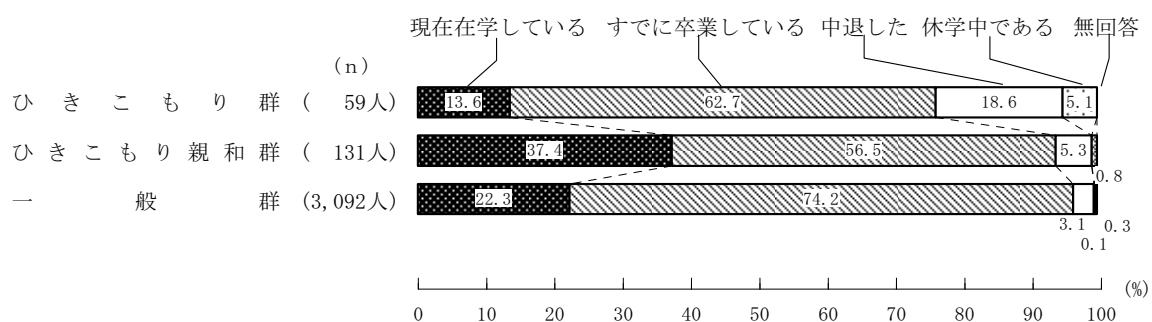


これまでに通院・入院した病気があるか聞いたところ、ひきこもり群やひきこもり親和群は精神的な病気での通院・入院経験が多く、ひきこもりやひきこもりに親和的な態度になることの理由の一つとして、精神疾患があることが推測される(ひきこもり群 37.3%、ひきこもり親和群 16.8%)。

また、一般群、ひきこもり親和群では「あてはまるものはない」が最も多く4割以上であったが、ひきこもり群は、「あてはまるものはない」と回答するものが少なく、ひきこもりの多くは何らかの疾患による通院・入院を経験しているとみられる。

9 通学状況

Q9 あなたは現在学校に通っていますか。(〇はひとつだけ)

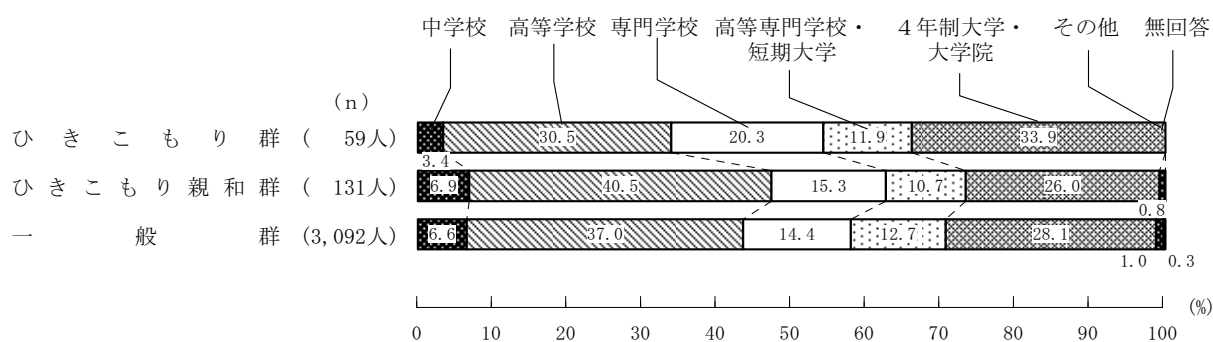


現在の通学状況について聞いたところ、ひきこもり群で「すでに卒業している」が62.7%、「中退した」18.6%、「現在在学している」13.6%、「休学中である」5.1%で、ひきこもり親和群では「すでに卒業している」が56.5%、「現在在学している」37.4%、「中退した」5.3%、「休学中である」0.8%であった。また、一般群では「すでに卒業している」が74.2%、「現在在学している」が22.3%、「中退した」3.1%、「休学中である」0.1%となっていた。

ひきこもり群、ひきこもり親和群、一般群を比較すると、ひきこもり群は「中退した」や「休学中である」が多い傾向にあった。また、ひきこもり親和群は「現在在学している」が多かった。これはひきこもり親和群の年齢が10代に偏っていることとも対応していた。

10 卒業・在学中の学校

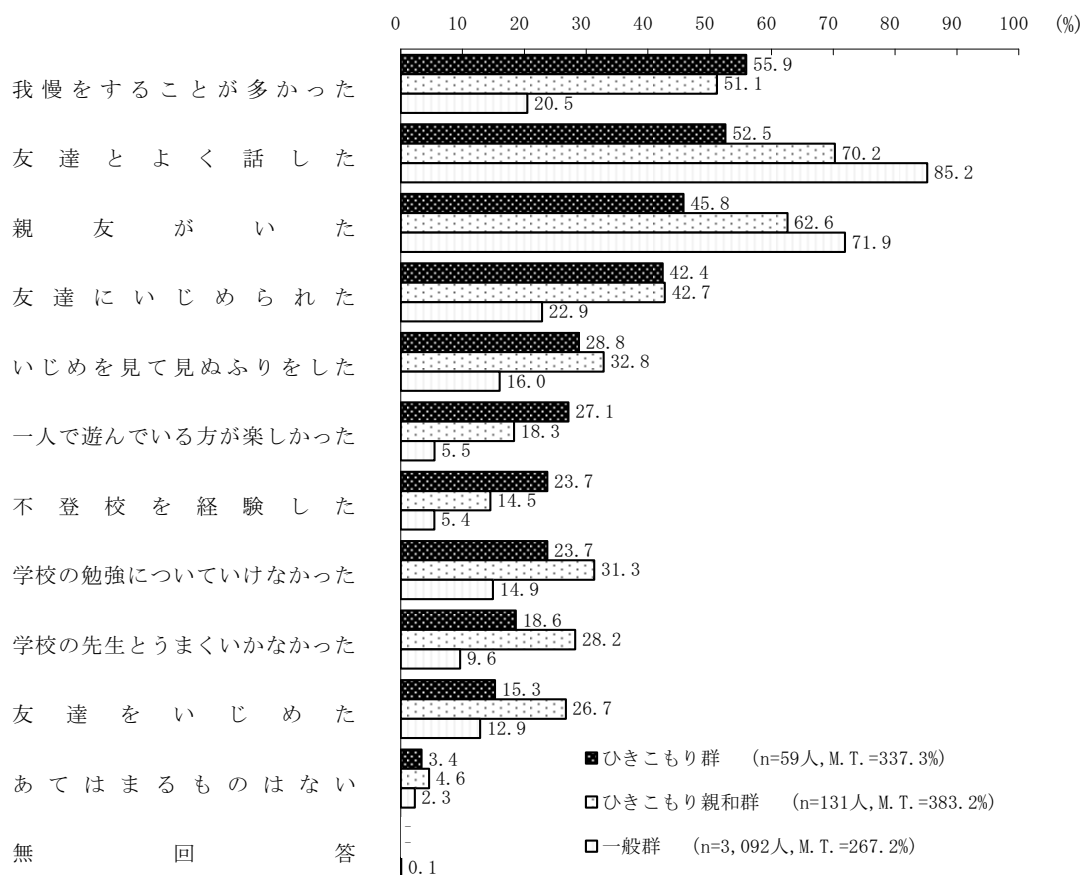
Q10 あなたが最後に卒業(中退を含む)した、または現在在学している学校はどれですか。(〇はひとつだけ)



最後に卒業した、又は在学している学校について聞いたところ、ひきこもり群では「4年制大学・大学院」が33.9%、「高等学校」が30.5%、「専門学校」20.3%、「高等専門学校・短期大学」11.9%、「中学校」3.4%、ひきこもり親和群では「高等学校」が40.5%、「4年制大学・大学院」が26.0%、「専門学校」15.3%、「高等専門学校・短期大学」10.7%、「中学校」6.9%であった。一般群では「高等学校」が37.0%、「4年制大学・大学院」が28.1%、「専門学校」14.4%、「高等専門学校・短期大学」12.7%となっていた。

1 1 小中学校時代の学校での経験

Q 1 1 あなたは小学校や中学校の頃に、学校で次のようなことを経験したことがありますか。
 あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



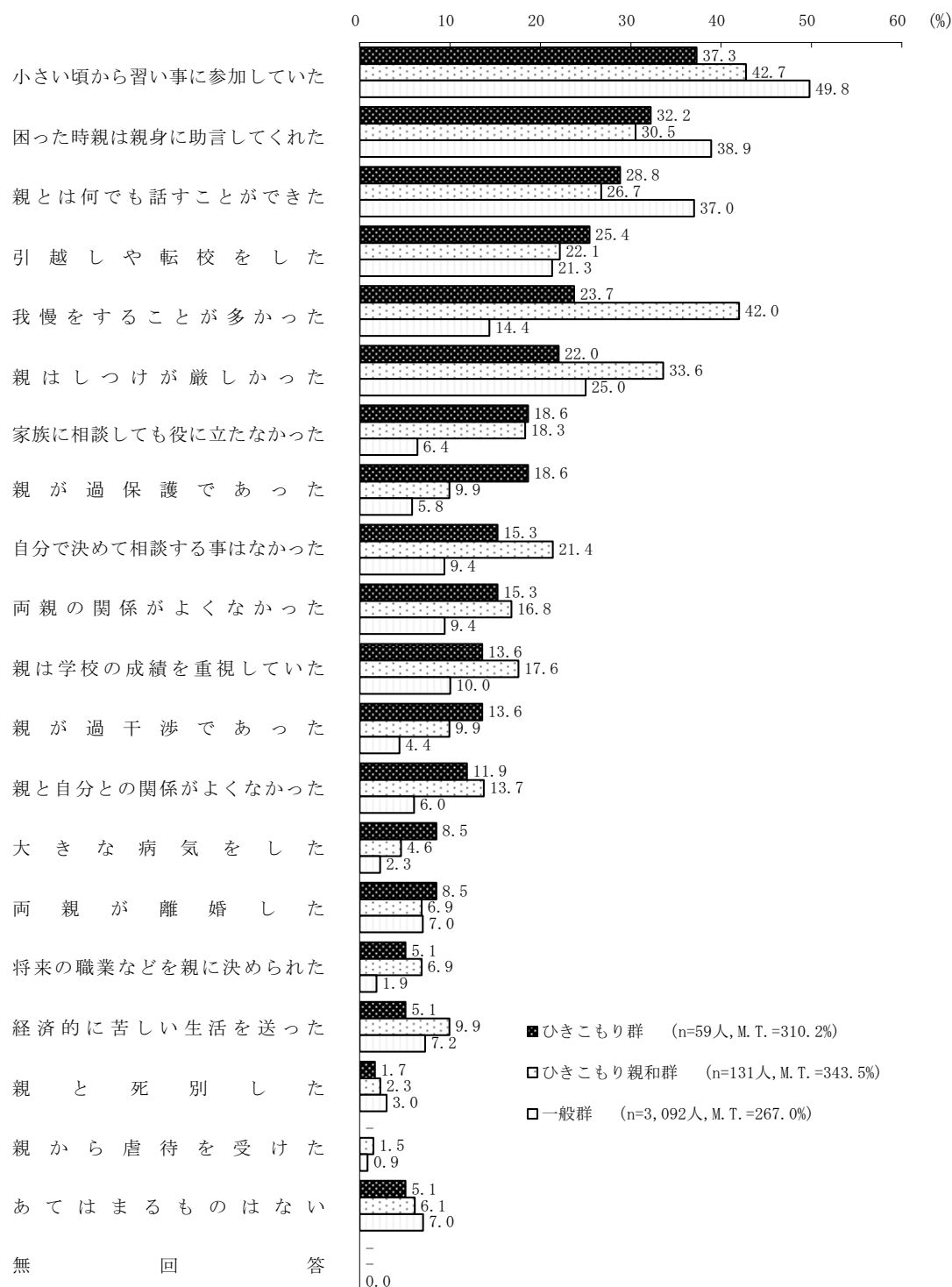
小学校や中学校の頃に学校で経験したことについて聞いたところ、ひきこもり群では「我慢をすることが多かった」が55.9%、「友達とよく話した」が52.5%でこの2項目が半数を超え、ひきこもり親和群では「友達とよく話した」が7割(70.2%)で最も高く、「親友がいた」が62.6%、「我慢をすることが多かった」が51.1%でこの3項目で半数を超えていた。一般群では「友達とよく話した」が8割を超え(85.2%)、次いで「親友がいた」も7割を超えている(71.9%)。ひきこもり群、ひきこもり親和群で半数を超えていた「我慢をすることが多かった」は2割(20.5%)であった。

ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群と比較した場合、学校生活において「我慢をすることが多かった」、「友達にいじめられた」、「いじめを見て見ぬふりをした」、「一人で遊んでいる方が楽しかった」、「学校の先生とうまくいかなかった」が多かった。さらに、ひきこもり群とひきこもり親和群は、「友達とよく話した」や「親友がいた」が一般群よりも少なかった。また、ひきこもり群とひきこもり親和群は、「不登校を経験した」も多く、学校生活になじめなかった者が多いと考えられる。

さらに、ひきこもり親和群では、「学校の勉強についていけなかった」や「友達をいじめた」も多かった。

1 2 小中学校時代の家庭での経験

Q 1 2 あなたは小学校や中学校の頃に、家庭で次のようなことを経験したことがありますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

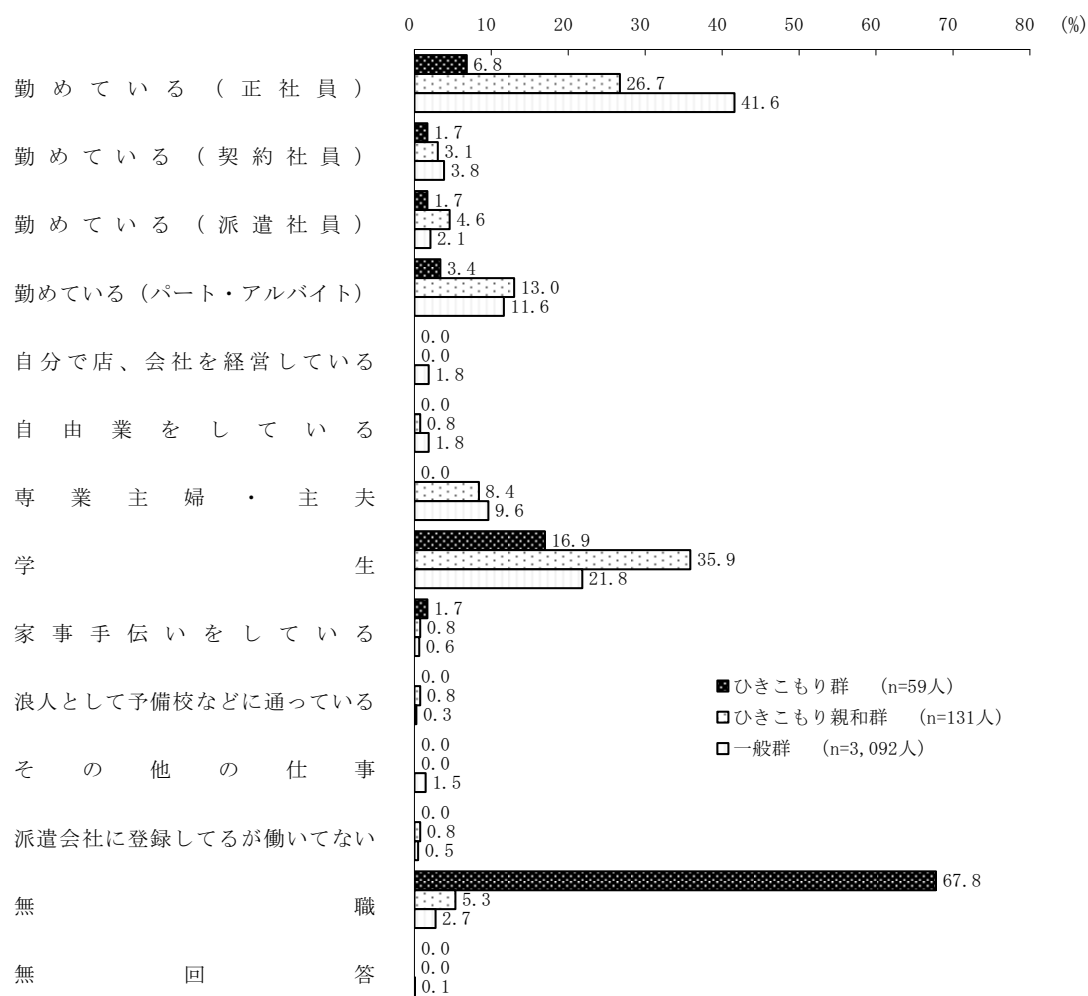


小学校や中学校の頃に、家庭での経験を聞いたところ、ひきこもり群、ひきこもり親和群、一般群とも「小さい頃から習い事に参加していた」が最も多く（ひきこもり群 37.3%、ひきこもり親和群 42.7%、一般群 49.8%）になっていた。ひきこもり群と一般群は次いで「困った時親は親身に助言してくれた」（ひきこもり群 32.2%、一般群 38.9%）、「親とは何でも話すことができた」（ひきこもり群 28.8%、一般群 37.0%）となっているが、ひきこもり親和群は次いで「我慢をすることが多かった」が4割(42.0%)で、「親はしつけが厳しかった」は 33.6%であった。

ひきこもり群は、ひきこもり親和群や一般群に比べて、「親が過保護であった」や「大きな病気をした」が多かった。ひきこもり親和群は「我慢をすることが多かった」、「自分で決めて相談することはなかった」、「両親の関係がよくなかった」、「親は学校の成績を重視していた」、「親と自分の関係がよくなかった」、「将来の職業などを親に決められた」が多く、「親とは何でも話すことができた」が少なかった。ひきこもり群、ひきこもり親和群ともに、「家族に相談しても役に立たなかった」や「親が過干渉であった」が一般群よりも多かった。

1.3 現在の就業状況

Q13 あなたは現在働いておられますか。(○はひとつだけ)



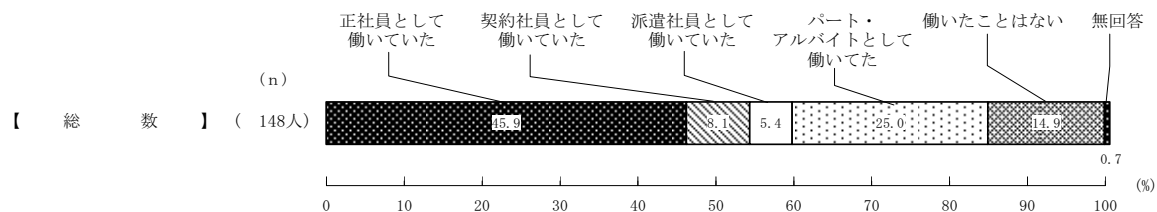
現在の就業状況を聞いたところ、ひきこもり群は「無職」が中心となっており、ひきこもり親和群は「学生」が多かった。ひきこもり群では「無職」が約7割(67.8%)、次いで「学生」が16.9%で、ひきこもり親和群では「学生」が約4割(35.9%)、次いで「勤めている(正社員)」が約3割(26.7%)、「勤めている(パート・アルバイト)」が13.0%となっていた。一般群では「勤めている(正社員)」が41.6%、「学生」が21.8%、「勤めている(パート・アルバイト)」が11.6%であった。

なお、ひきこもり群でありながら「勤めている(正社員)」というのは、例えば長期休職中などが想定される。

14 働いた経験

【Q13で、12. または 13. とお答えになった方のみ、Q14～Q16に回答してください。】

Q14 あなたはいままでに働いていたことはありますか。(〇はひとつだけ)

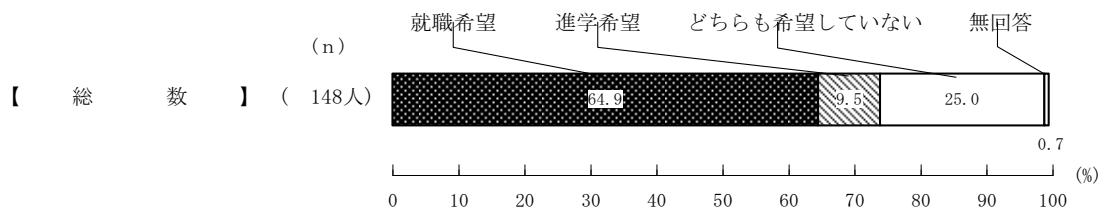


Q13で「12. 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」、又は「13. 無職」と答えた人に働いた経験を聞いたところ、「正社員として働いていた」は45.9%、「パート・アルバイトとして働いていた」が25.0%、「契約社員として働いていた」8.1%、「派遣社員として働いていた」5.4%で、「働いたことはない」は14.9%であった。

15 就職又は進学希望

【Q13で、12. または 13. とお答えになった方のみ、Q14～Q16に回答してください。】

Q15 現在就職または進学を希望していますか。(〇はひとつだけ)

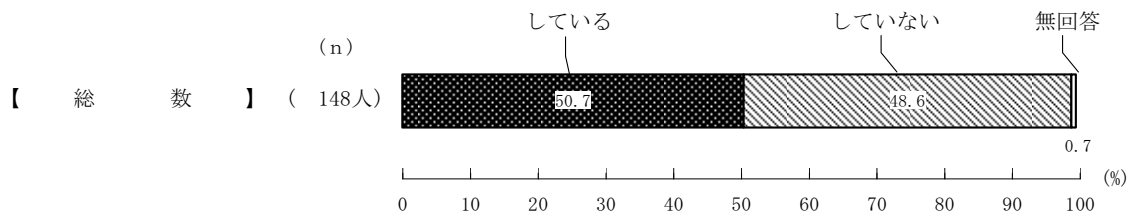


Q13で「12. 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」、又は「13. 無職」と答えた人に、現在就職又は進学を希望しているか聞いたところ、「就職希望」が64.9%、「進学希望」が9.5%、「どちらも希望していない」が25.0%であった。

16 就職活動

【Q13で、12. または 13. とお答えになった方のみ、Q14～Q16に回答してください。】

Q16 現在就職活動をしていますか。(○はひとつだけ)

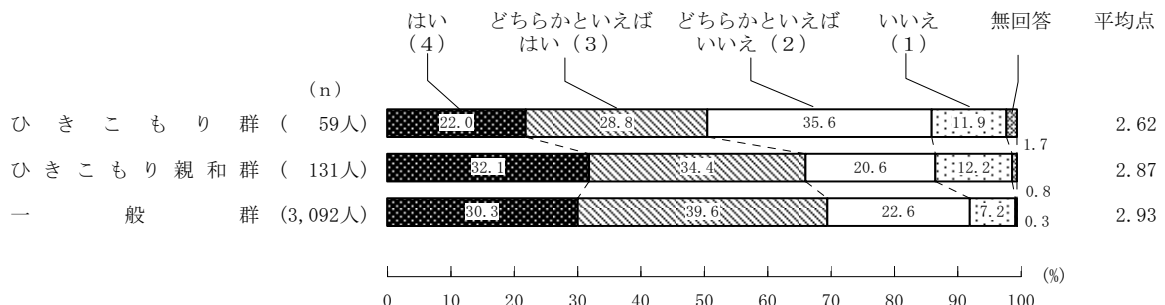


Q13で「12. 派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」、又は「13. 無職」と答えた人に、現在就職活動をしているか聞いたところ、「している」「していない」ほぼ半々であった（している50.7%、していない48.6%）。

17 職業に関する考え方

Q17 次に挙げられた職業に関する意見の中で、あなたの考えにあてはまる番号に○をつけてください。
(○はひとつの項目につきひとつ)

1. いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う

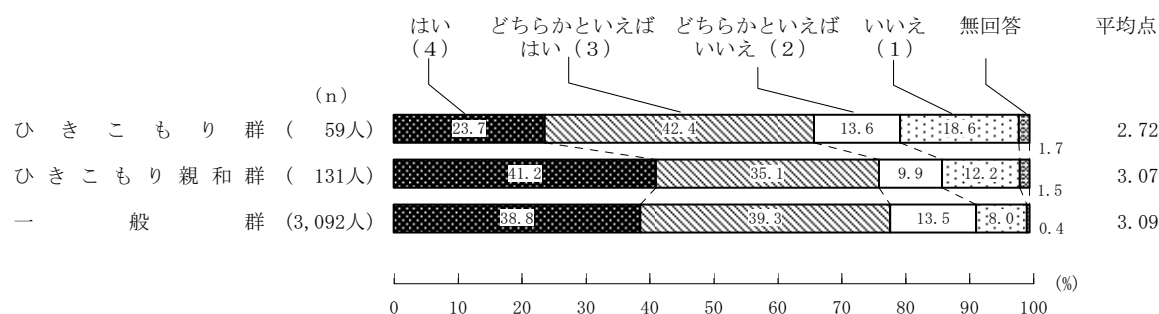


職業に関する4つの意見について、自分の考えにあてはまるか聞いた。

『1. いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う』について聞いたところ、ひきこもり群では「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は50.8%、ひきこもり親和群では66.5%、一般群では69.9%となった。

ひきこもり群は、一般群と比較して自分にあった仕事を見つけられるという自信が低い傾向があった。

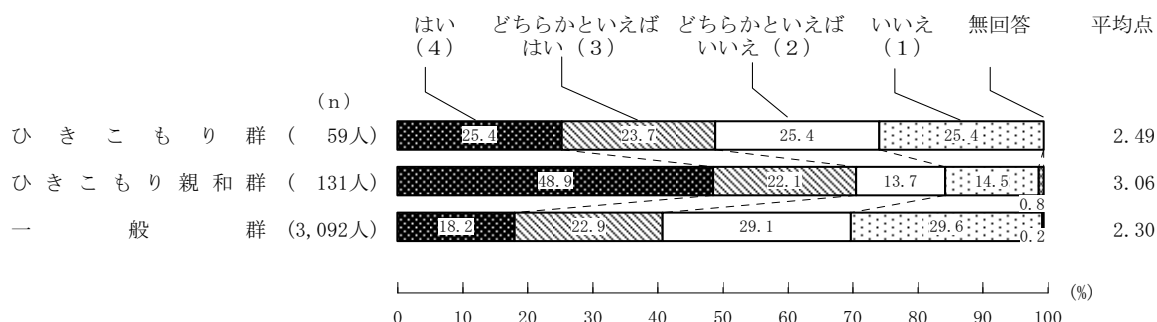
Q17 2. いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい



『いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい』か聞いたところ、「いいえ」又は「どちらかといえはいえ」と答えた者は、ひきこもり群では32.2%、ひきこもり親和群では22.1%、一般群では21.5%であった。

ひきこもり群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて、自分の夢を実現させる仕事に就こうとする希望を持つことが少ない傾向があった。

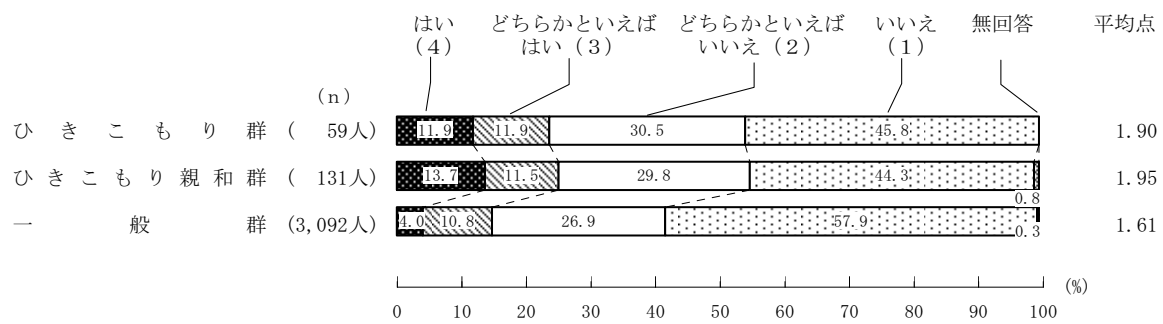
Q17 3. 仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない



『仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない』かどうか聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえはい」と答えた者は、ひきこもり親和群では7割を超えている(71.0%)が、ひきこもり群では49.1%、一般群では41.1%と半数以下であった。

ひきこもり親和群は、ひきこもり群や一般群よりも、できることならば仕事したくないと考える傾向が高かった。

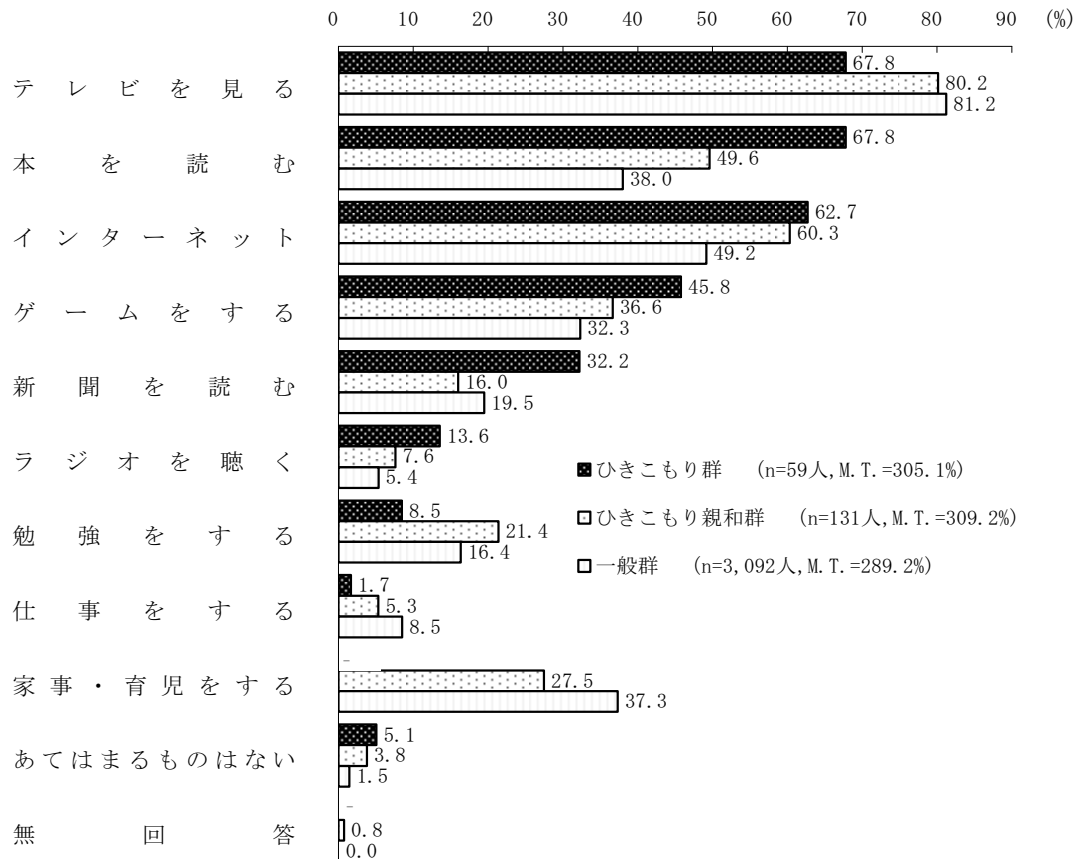
Q17 4. 定職に就かない方が自由でいいと思う



『定職に就かない方が自由でいいと思う』かどうか聞いたところ、「いいえ」又は「どちらかといえはいえ」と答えた者は、ひきこもり群では76.3%、ひきこもり親和群では74.1%、一般群では84.8%で、否定的意見が多数ではあったが、ひきこもり親和群やひきこもり群は、一般群よりも定職に就かないでいることを自由であると捉える傾向が高かった。

18 ふだん自宅をよくしていること

Q18 ふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

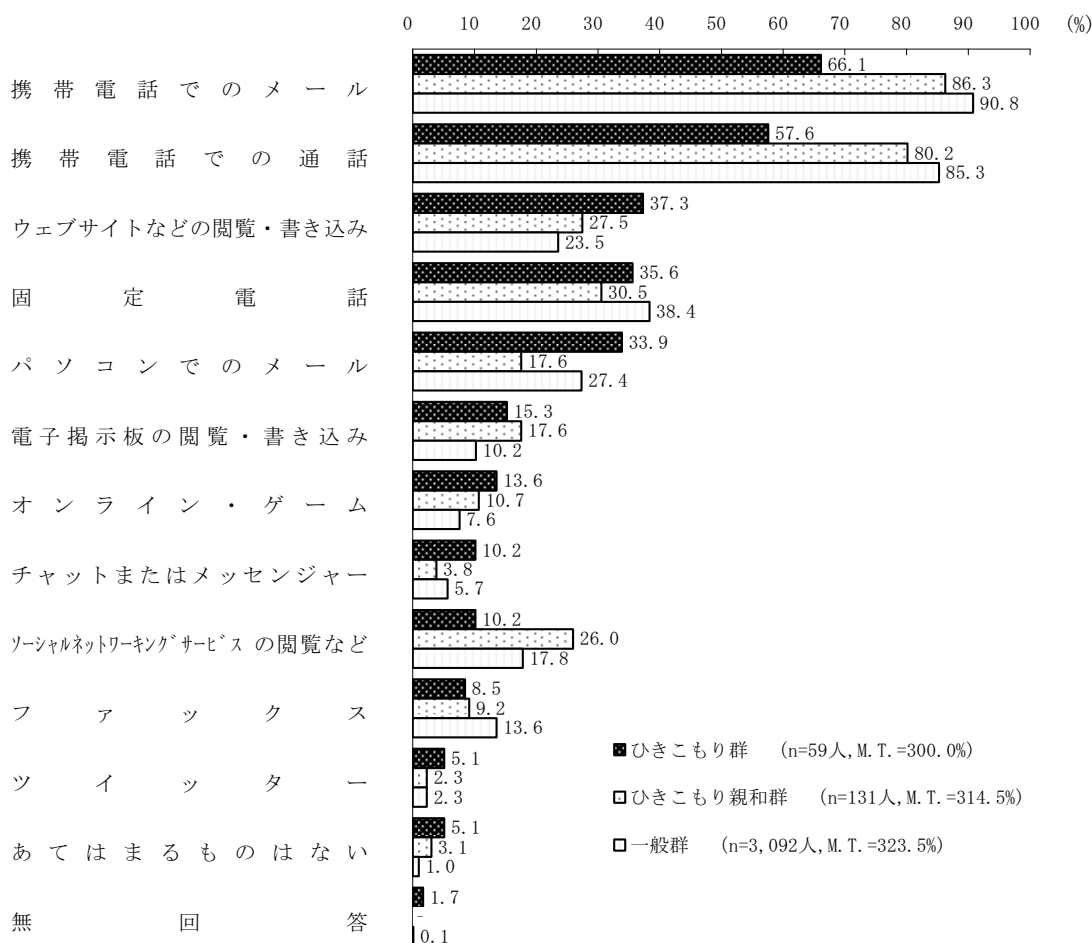


ふだん自宅にいるときによくしていることを聞いたところ、ひきこもり群では、「テレビを見る」、「本を読む」が最も多く67.8%、次いで「インターネット」が62.7%で、この3項目で半数を超えている。ひきこもり親和群では、「テレビを見る」(80.2%)、「インターネット」(60.3%)の2項目が多くなっていた。一般群では、「テレビを見る」が81.2%と多いが、第2位の「インターネット」は半数以下の49.2%となっていた。

3群を比較するとひきこもり群とひきこもり親和群は、「本を読む」や「インターネット」、「あてはまるものがない」が多く、「家事・育児をする」が少なかった。また、ひきこもり群は、「ラジオを聴く」や「新聞を読む」が多く、「テレビを見る」は比較的少なかった。

19 通信手段でふだん利用しているもの

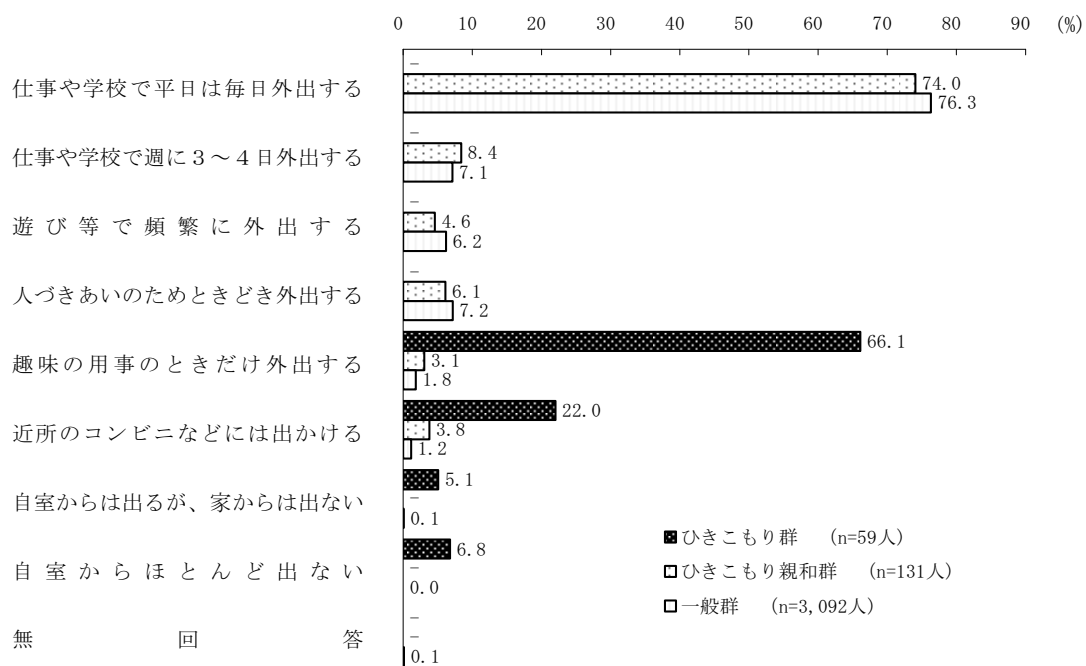
Q19 以下に挙げられた通信手段の中で、ふだん利用しているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



ふだん利用している通信手段を聞いたところ、ひきこもり群、ひきこもり親和群、一般群とも、「携帯電話でのメール」が最も多く、次いで「携帯電話での通話」となっていた。一般群とひきこもり親和群では「携帯電話でのメール」、「携帯電話での通話」が8割以上なのに対し、ひきこもり群では「携帯電話でのメール」が66.1%、「携帯電話での通話」が57.6%とやや少なくなっていた。ひきこもり群は、ひきこもり親和群や一般群と比較して、「ウェブサイトなどの閲覧・書き込み」が多く、「携帯電話での通話」や「携帯電話でのメール」が少なかった。ひきこもり親和群は、「電子掲示板の閲覧・書き込み」や「ソーシャルネットワーキングサービスの閲覧など」が多く、「パソコンでのメール」は少なかった。また、ひきこもり群、ひきこもり親和群ともに「あてはまるものはない」が一般群よりも多かった。

20 ふだんの外出頻度

Q20 ふだんどのくらい外出しますか。(〇はひとつだけ)

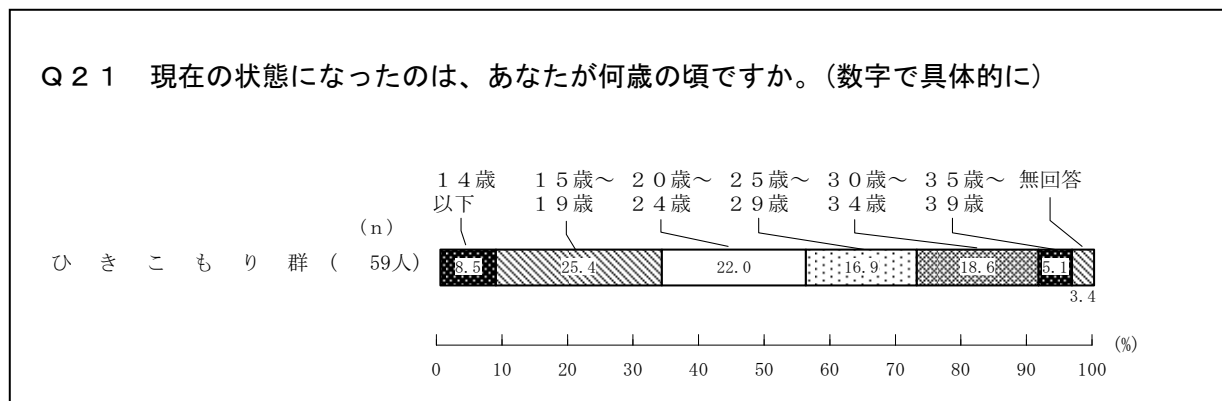


ふだんの外出頻度を聞いたところ、ひきこもり群の中では、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する」及び「近所のコンビニなどには出かける」を合わせると、88.1%であった。ひきこもり群の中で「自室からほとんど出ない」と回答した者は、6.8%であった。ひきこもり親和群では、ほとんどが日常的に外出しているものの、外出頻度が低い者が、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する」及び「近所のコンビニなどには出かける」を合わせると6.9%であった。

Q21～SQ26 1は、Q20において外出頻度が低かった者（「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」から「自室からほとんど出ない」を選択した者）のみが回答する項目であった。

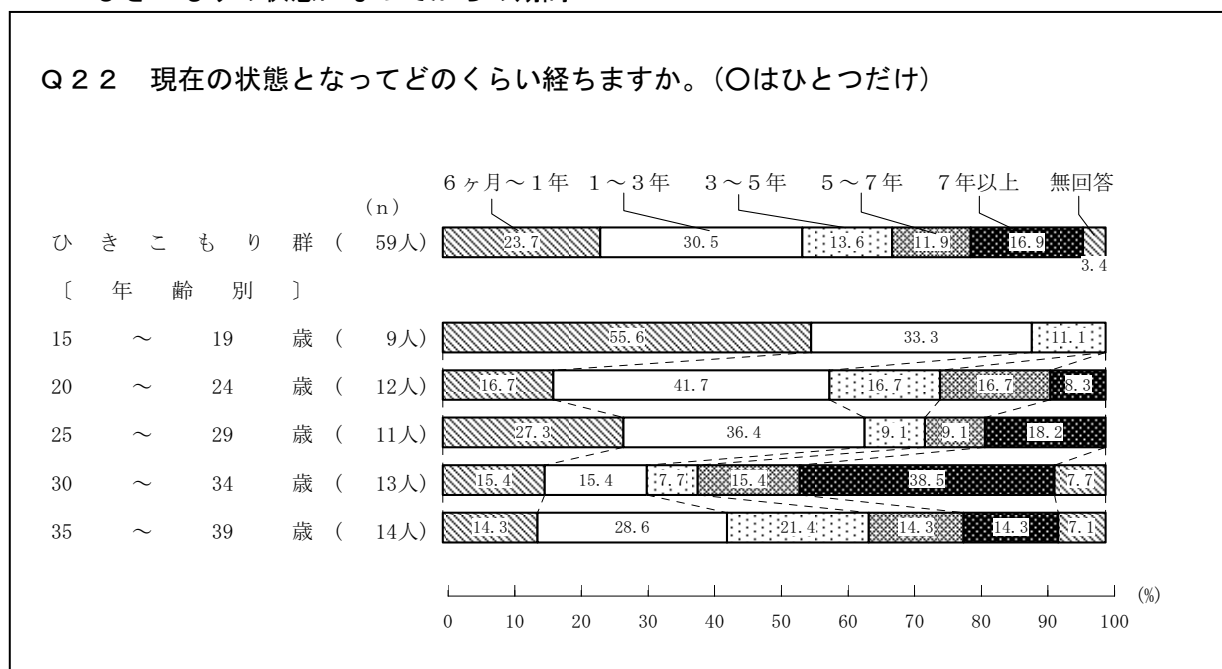
本報告書では、その中でもひきこもり群に該当する者の結果について記載する。

2.1 ひきこもりの状態になった年齢



現在の状態になったのは何歳の頃か聞いたところ、「14歳以下」が8.5%、「15～19歳」が25.4%、「20～24歳」が22.0%、「25～29歳」が16.9%、「30～34歳」が18.6%、「35～39歳」が5.1%であった。「14歳以下」及び「15歳～19歳」を合わせると33.9%となり、3割強の者が10代のうちにひきこもりの状態になっていた。一方、「30歳～34歳」及び「35歳～39歳」を合わせると、30代でひきこもり始めた者も23.7%いることが明らかとなった。

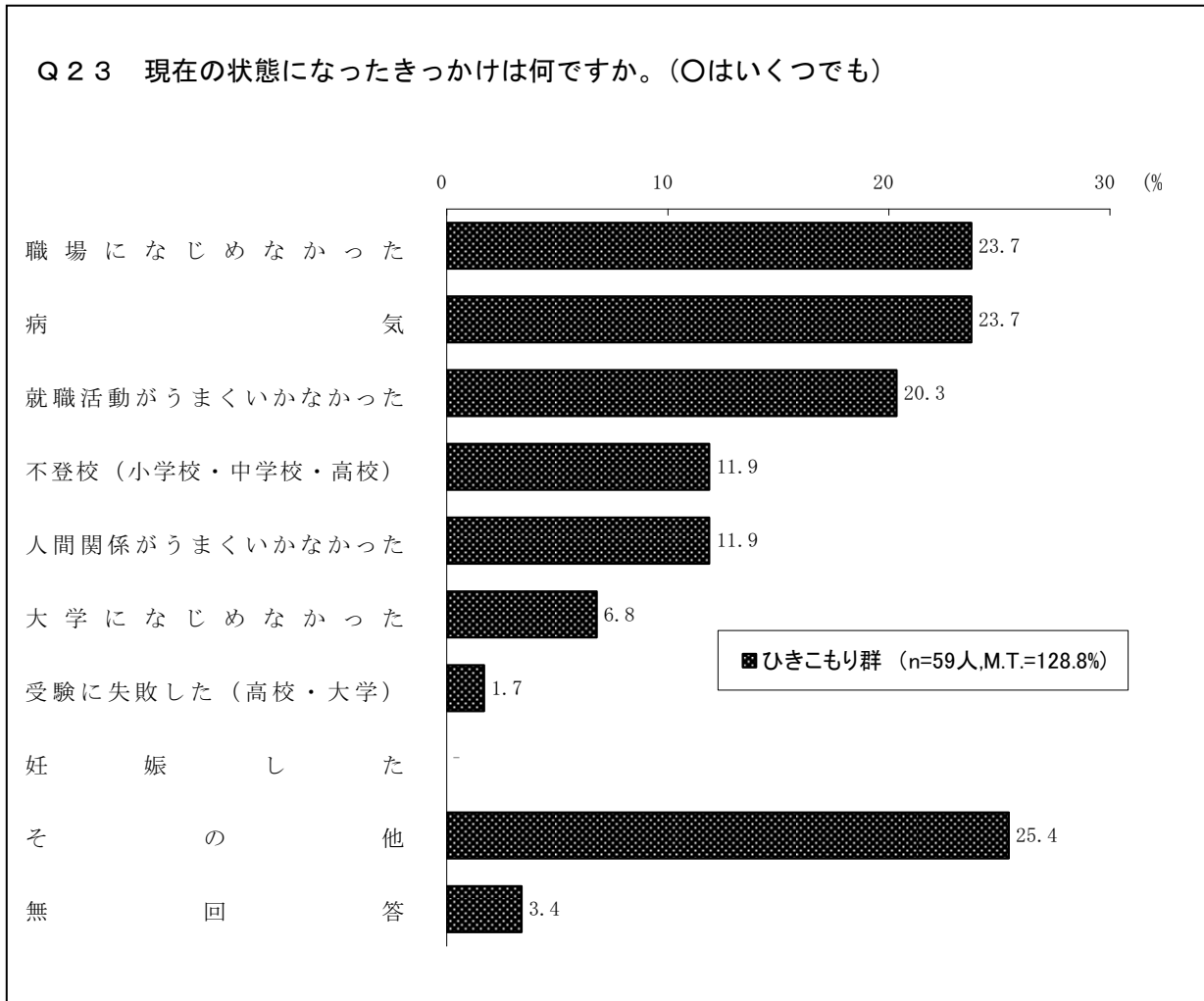
2.2 ひきこもりの状態になってからの期間



現在の状態になってからの期間を聞いたところ、「6ヶ月～1年」が23.7%、「1～3年」が30.5%、「3～5年」が13.6%、「5～7年」が11.9%、「7年以上」をあげた者が16.9%であった。年齢別に見ると、15～19歳は、「6ヶ月～1年」が55.6%で最も多く、20～24歳と25～29歳は

「1～3年」が多くなっていた（41.7%、36.4%）。30～34歳では「7年以上」が38.5%で最も多くなっていた。「6ヵ月～1年」（23.7%）と「1～3年」（30.5%）を合わせると54.2%となり、ひきこもり始めてから3年以下の者が半数以上を占めていた。しかし、「7年以上」も16.9%となっており、ひきこもりが長期化しているケースも存在することが示された。

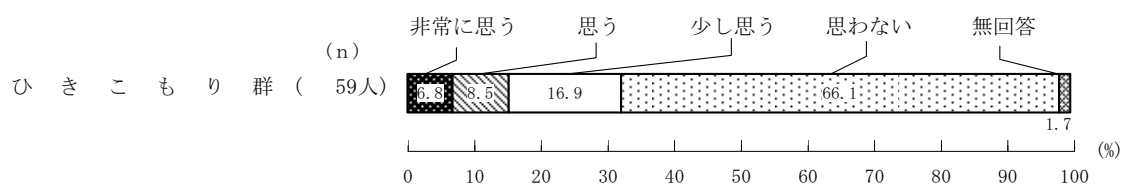
2.3 現在の状態になったきっかけ



現在の状態になったきっかけを聞いたところ、「病気」23.7%、「職場になじめなかった」23.7%、「その他」が25.4%であった。「職場になじめなかった」(23.7%)と「就職活動がうまくいかなかった」(20.3%)を合わせると44.0%となり、仕事や就職に関するきっかけによってひきこもった者が多かった。「不登校(小学校・中学校・高校)」(11.9%)や「大学になじめなかった」(6.8%)は、合計しても18.7%にとどまっていた。

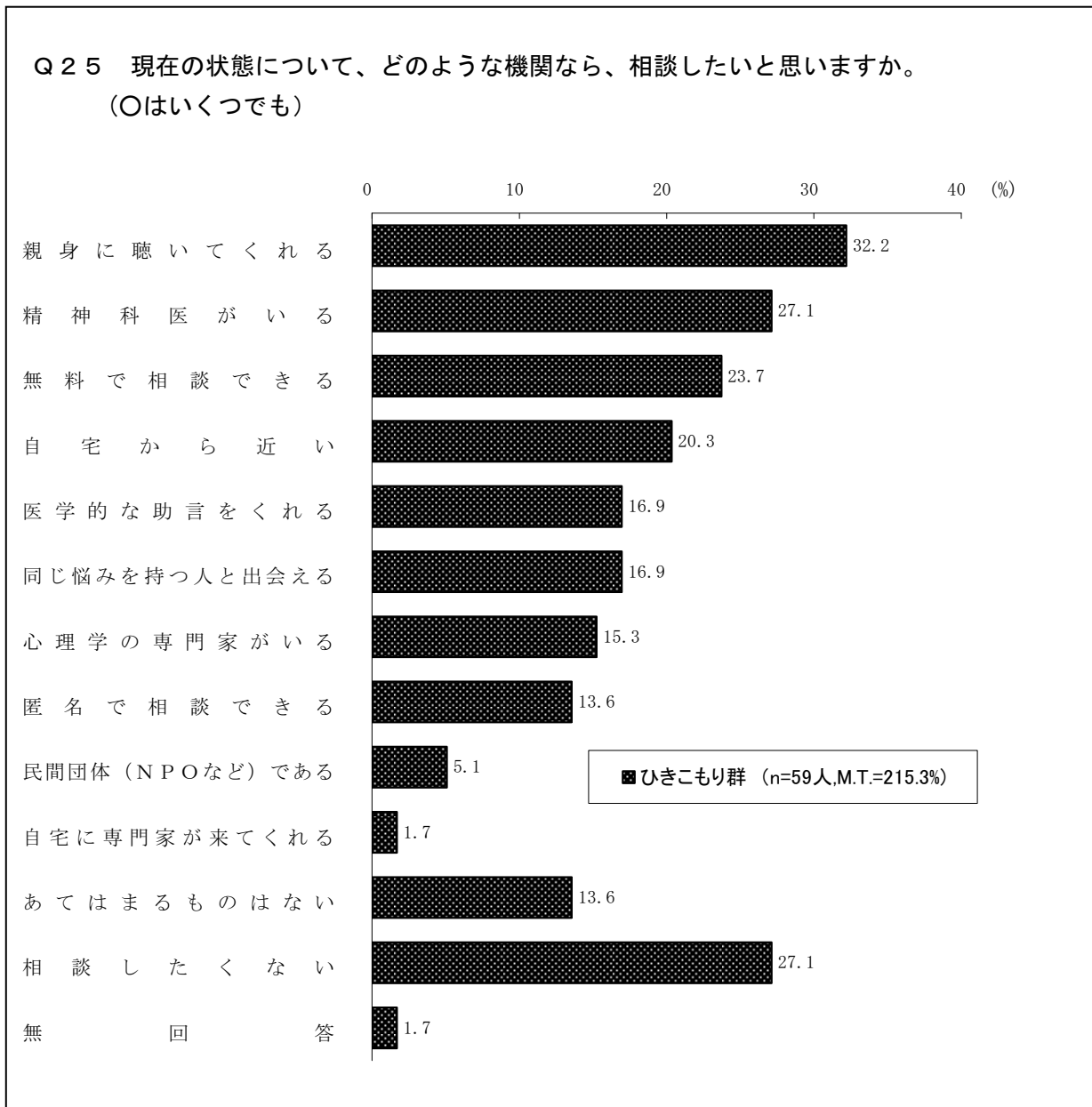
2.4 現在の状態について、関係機関に相談したいか

Q2.4 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。(○はひとつだけ)



現在の状態について、関係機関に相談したいか聞いたところ、「非常にそう思う」と答えた者は6.8%、「思う」は8.5%、「少し思う」は16.9%、「思わない」は66.1%であった。「思わない」を選択した者が66.1%と最も多く、ひきこもり群では関係機関への相談を避ける傾向があった。

25 現在の状態をどの機関なら相談したいか

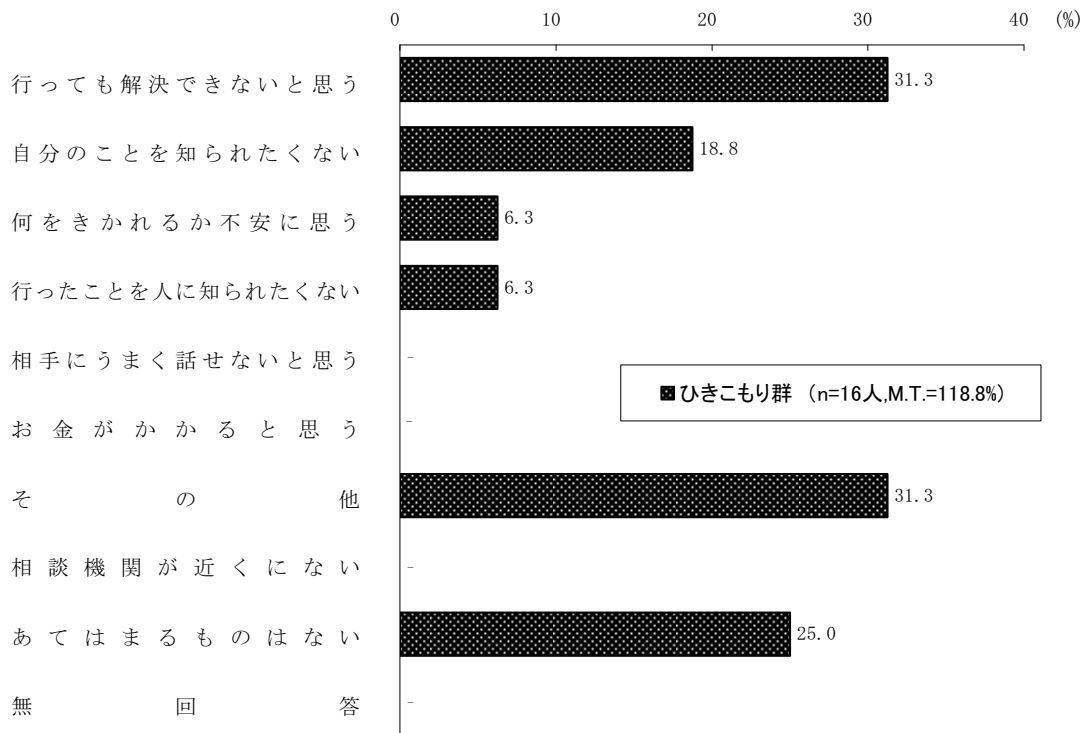


現在の状態をどのような機関なら相談したいか聞いたところ、「親身に聴いてくれる」32.2%、「精神科医がいる」が27.1%、「無料で相談できる」23.7%、「自宅から近い」20.3%、などの順となっていた。「相談したくない」も27.1%いた。ひきこもり群の者は、自分の話を「親身に聴いてくれる」相談機関を最も求めている（32.2%）ことが明らかとなった。その一方で、「相談したくない」も27.1%と多く、相談機関の条件に関わらず相談を避ける者も存在することが示された。

26 相談したくない理由

【Q25で「12. 相談したくない」と答えた人に】

SQ25__1 相談したくないと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

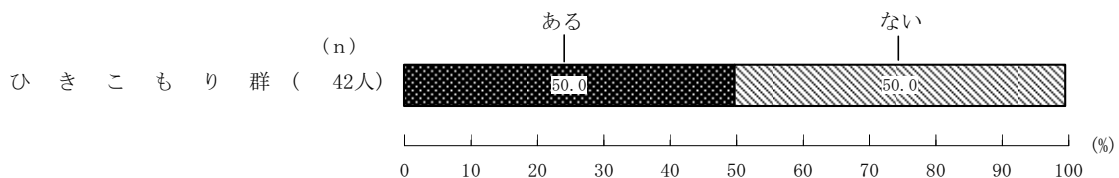


Q25で「相談したくない」と答えた者に、相談したくない理由を聞いたところ、「行っても解決できないと思う」、「その他」が31.3%であった。「あてはまるものはない」も25.0%あった。

27 関係機関に相談した経験

【Q25で1～11をあげた人に】

Q26現在の状態について、関係機関に相談したことはありますか。(〇はひとつだけ)

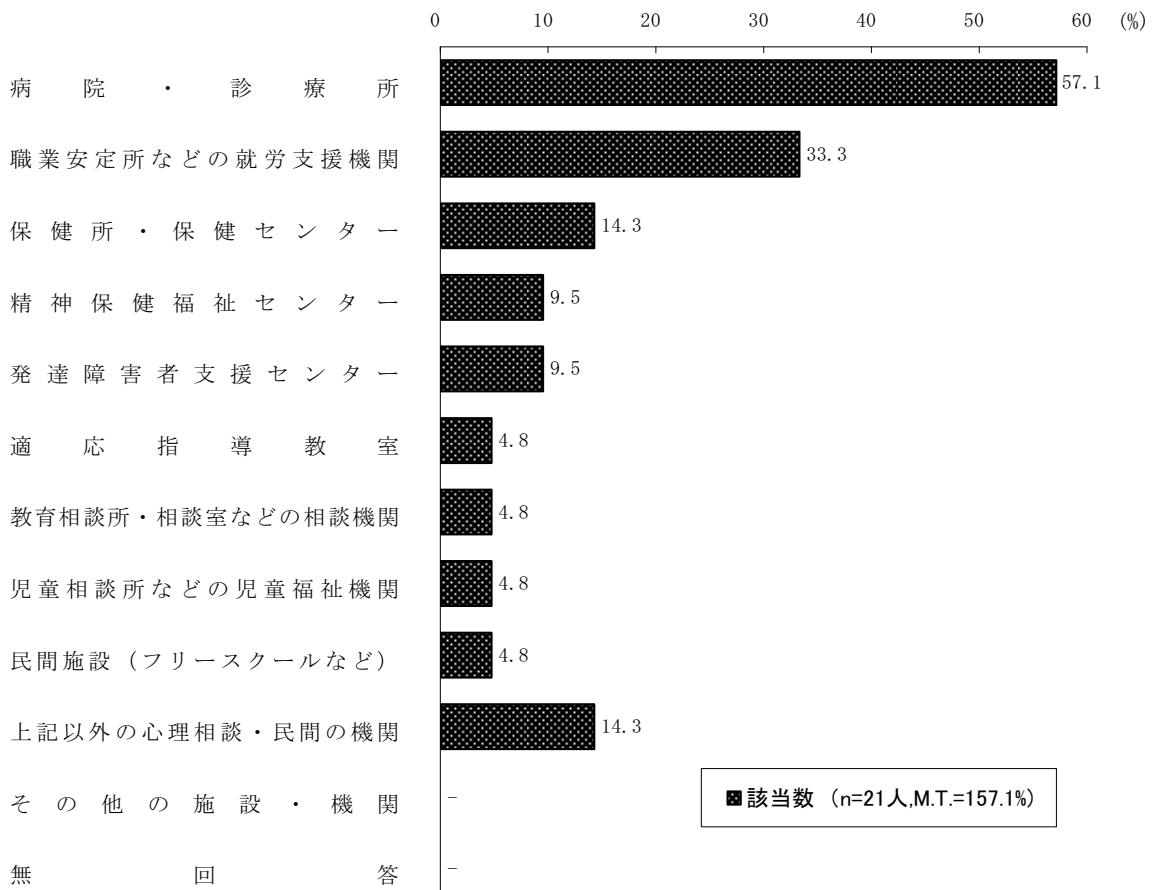


現在の状態について、関係機関に相談したことがあるか聞いたところ、「ある」と「ない」は半々の50.0%であった。

28 相談した機関

【Q26で「1. ある」と答えた人に】

SQ26_1 どのような相談機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。(○はいくつでも)



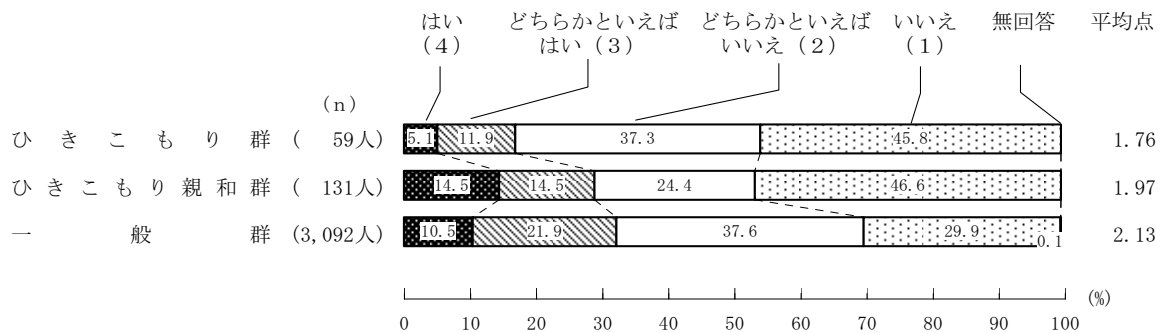
相談したことがあると答えた人に、どのような相談機関に相談したか聞いたところ、「病院・診療所」が 57.1%と最も多く、次いで、「職業安定所・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」が 33.3%となっていた。

29 自身にあてはまること

あなた自身にあてはまるかどうか 14 項目について聞いた。

Q27 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまる数字に○をつけてください。
(○は各項目につきひとつ)

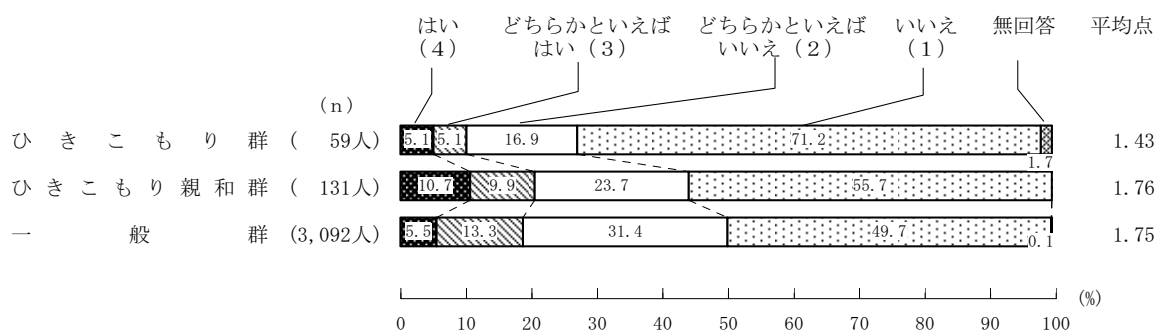
1. 私には持って生まれたすばらしい才能がある



『私には持って生まれたすばらしい才能がある』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では 17.0%、ひきこもり親和群では 29.0%、一般群では 32.4%であった。

ひきこもり群は、一般群と比べて自分の持って生まれた素質についての自信が低い傾向があった。

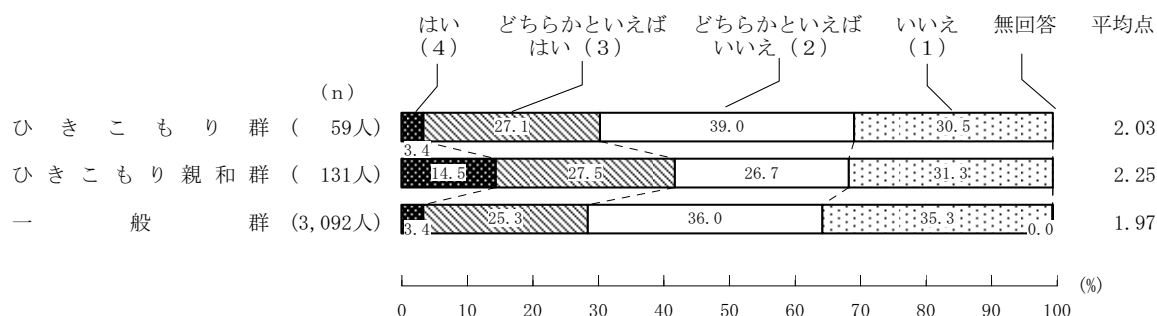
Q27 2. 私は他に並ぶ人がいないくらい、特別な存在である



『私は他に並ぶ人がいないくらい、特別な存在である』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では 10.2%、ひきこもり親和群では 20.6%、一般群では 18.8%であった。

ひきこもり群は、一般群と比べて自分を特別な存在として捉える傾向が低かった。

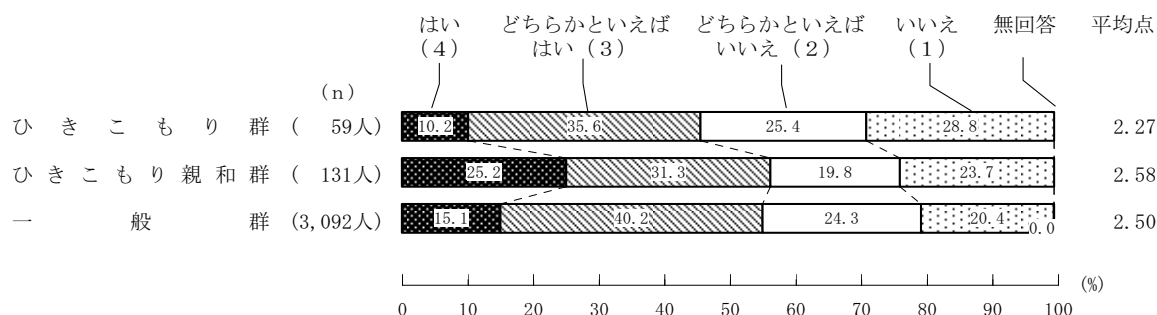
Q27 3. 大事なことを決めるときは、親や教師の言うことに従わないと不安だ



『大事なことを決めるときは、親や教師の言うことに従わないと不安だ』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では30.5%、ひきこもり親和群では42.0%、一般群では28.7%で、ひきこもり親和群で多くなっていた。

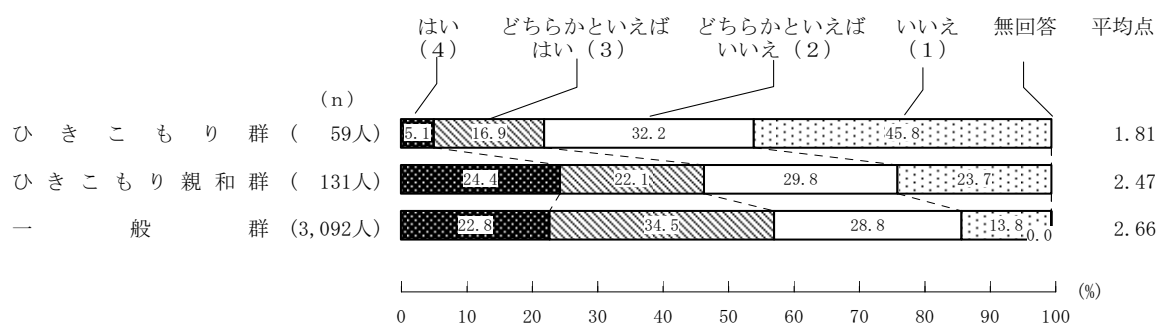
ひきこもり親和群は、一般群と比べて親や教師に従わずに自己決定をすることに不安を感じやすかった。

Q27 4. 大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ



『大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では45.8%、ひきこもり親和群では56.5%、一般群では55.3%であった。

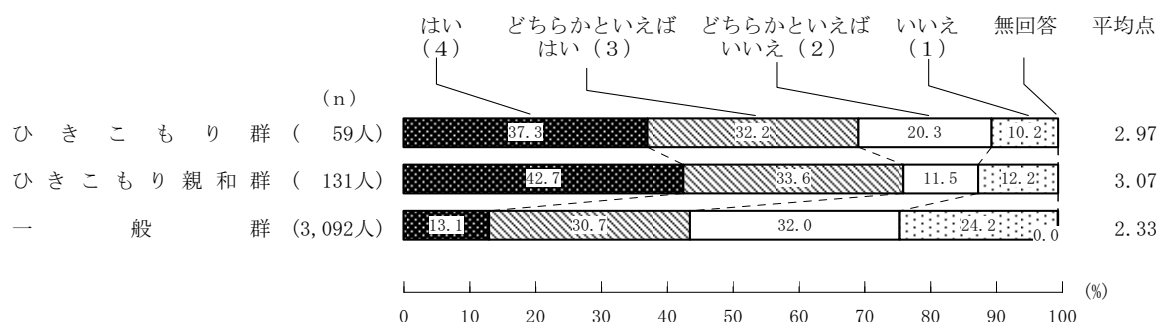
Q27 5. 初対面の人とすぐに会話できる自信がある



『初対面の人とすぐに会話できる自信がある』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では22.0%、ひきこもり親和群では46.5%、一般群では57.3%であった。

ひきこもり群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて、初対面の人との関わり方に自信がない傾向があった。

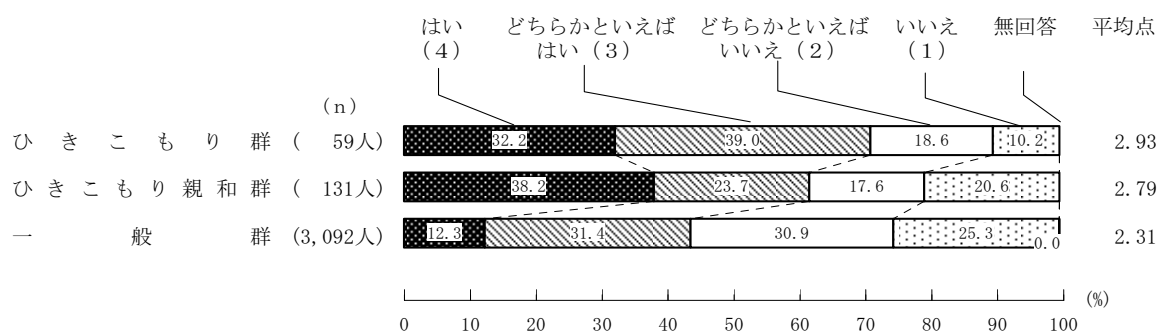
Q27 6. 人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む



『人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では69.5%、ひきこもり親和群では76.3%、一般群では43.8%であった。

ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群よりも、人づきあいが下手なのではないかと悩む傾向が高かった。

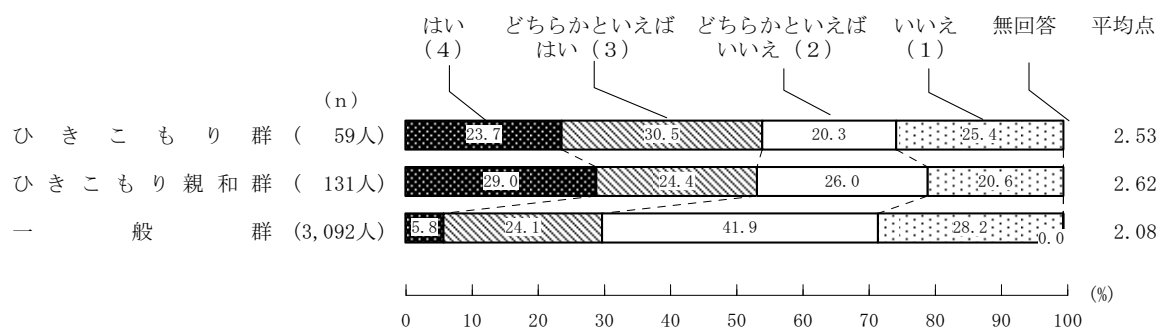
Q27 7. 自分の感情を表に出すのが苦手だ



『自分の感情を表に出すのが苦手だ』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では71.2%、ひきこもり親和群では61.9%、一般群では43.7%であった。

ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群と比べて、自己表現が苦手であると感じていた。

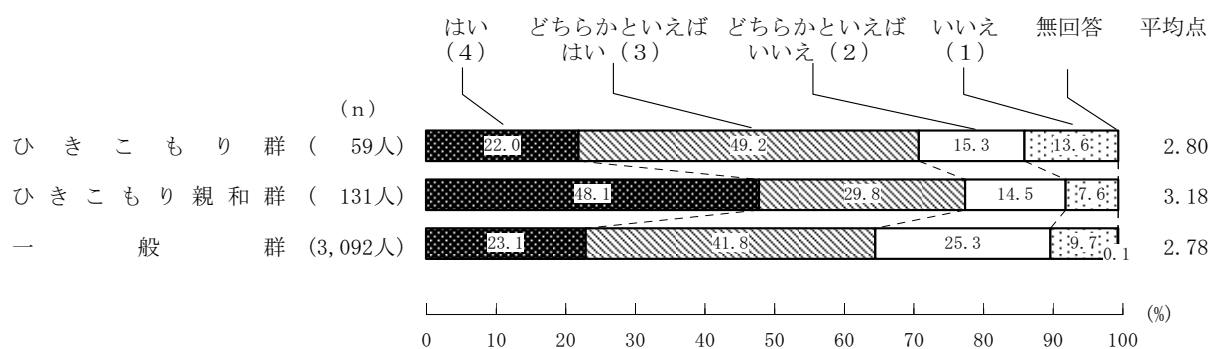
Q27 8. 周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない



『周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では54.2%、ひきこもり親和群では53.4%、一般群では29.9%であった。

ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群と比較して、他者との間に葛藤が生じた際に解決できる自信が低かった。

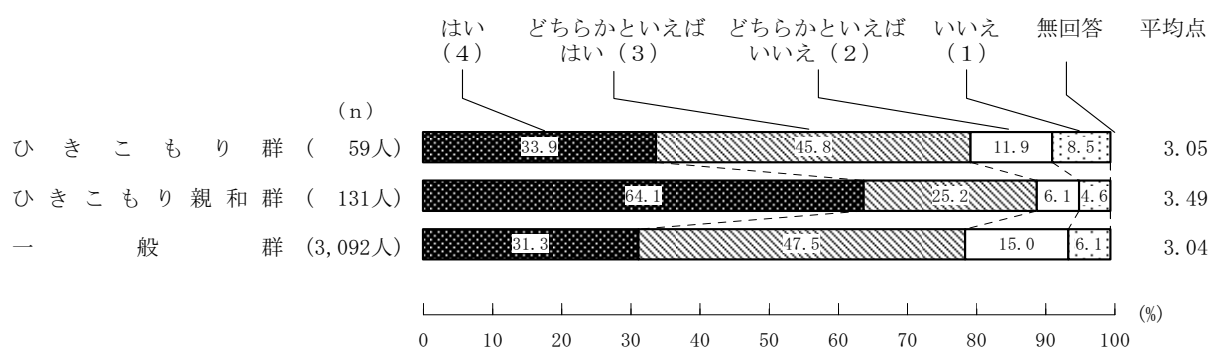
Q27 9. たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい



『たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい』について聞いたところ、「はい」と答えた者は、ひきこもり群では22.0%、ひきこもり親和群では48.1%、一般群では23.1%で、ひきこもり親和群で多くなっていた。

ひきこもり親和群は、ひきこもり群や一般群と比べて、自分のやりたいことについて他者から干渉されることを拒否する傾向があった。

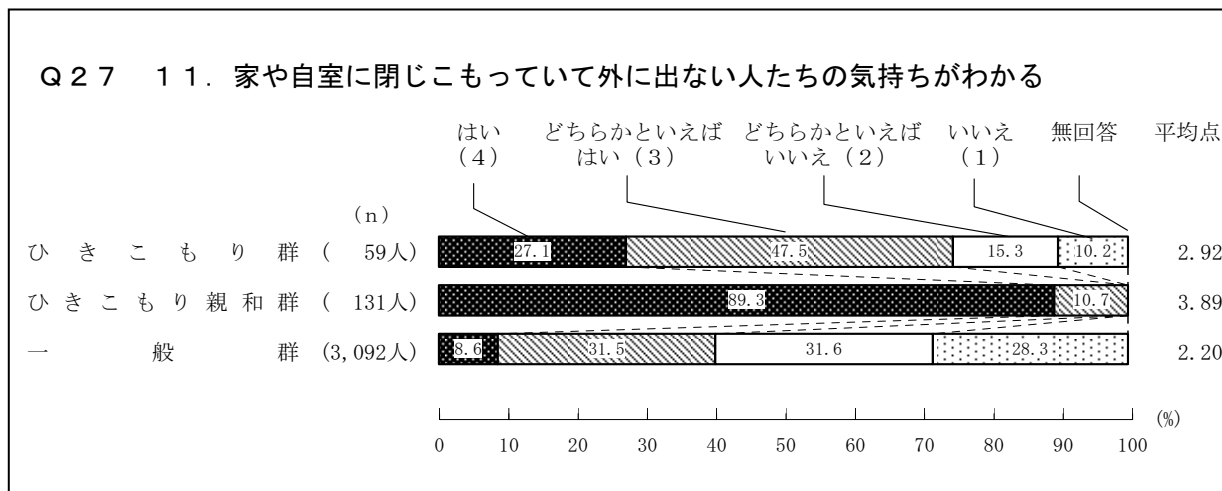
Q27 10. 自分の生活のことで人から干渉されたくない



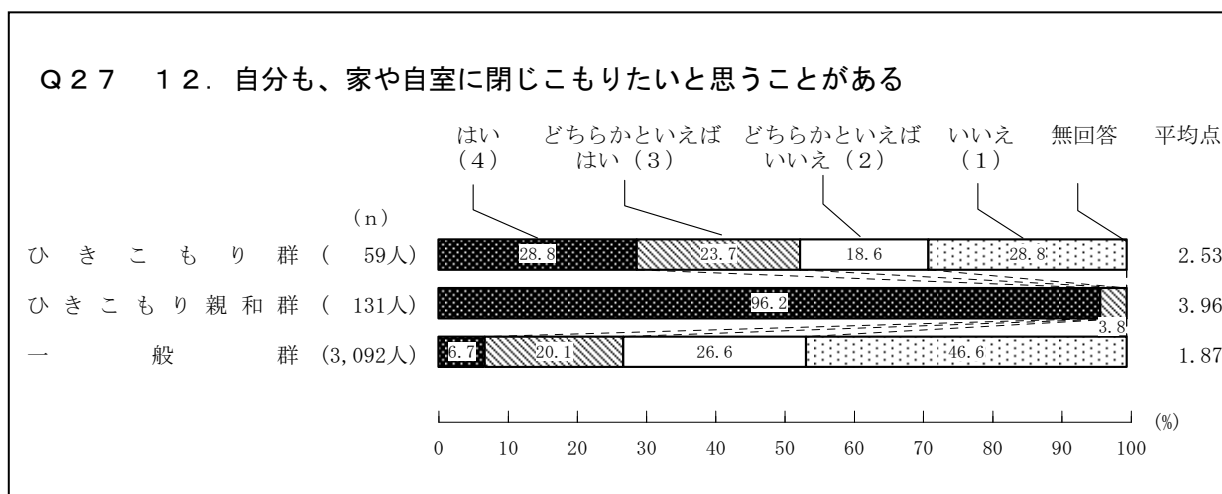
『自分の生活のことで人から干渉されたくない』について聞いたところ、「はい」と答えた者は、ひきこもり群では33.9%、ひきこもり親和群では64.1%、一般群では31.3%で、ひきこもり親和群で多くなっていた。

ひきこもり親和群は、ひきこもり群や一般群と比べて、自分の生活の仕方に他者が干渉することを嫌う傾向があった。

Q27 11~14はひきこもり親和群の定義に使用しているため、ひきこもり親和群についてはコメントせず。

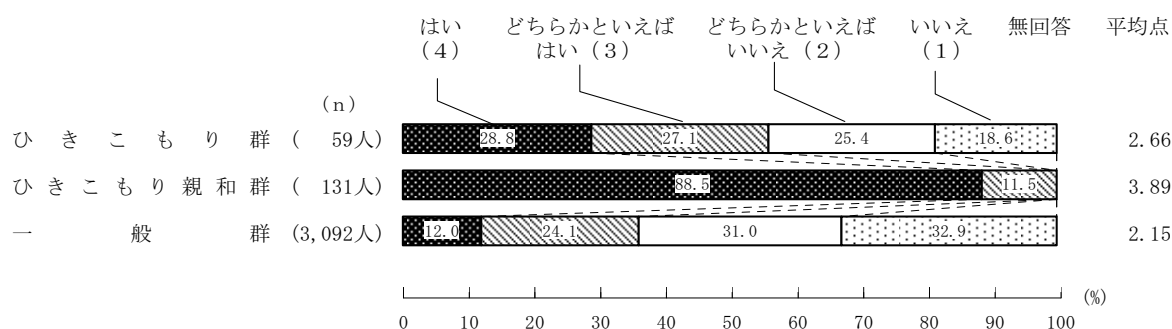


『家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では74.6%、一般群では40.1%であった。



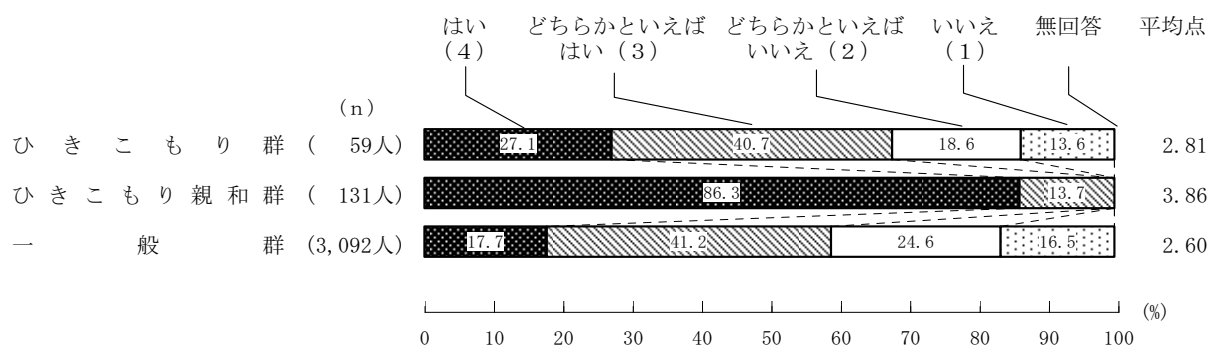
『自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では52.5%、一般群では26.8%であった。

Q27 13. 嫌な出来事があると、外に出たくなる



『嫌な出来事があると、外に出たくなる』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では55.9%、一般群では36.1%であった。

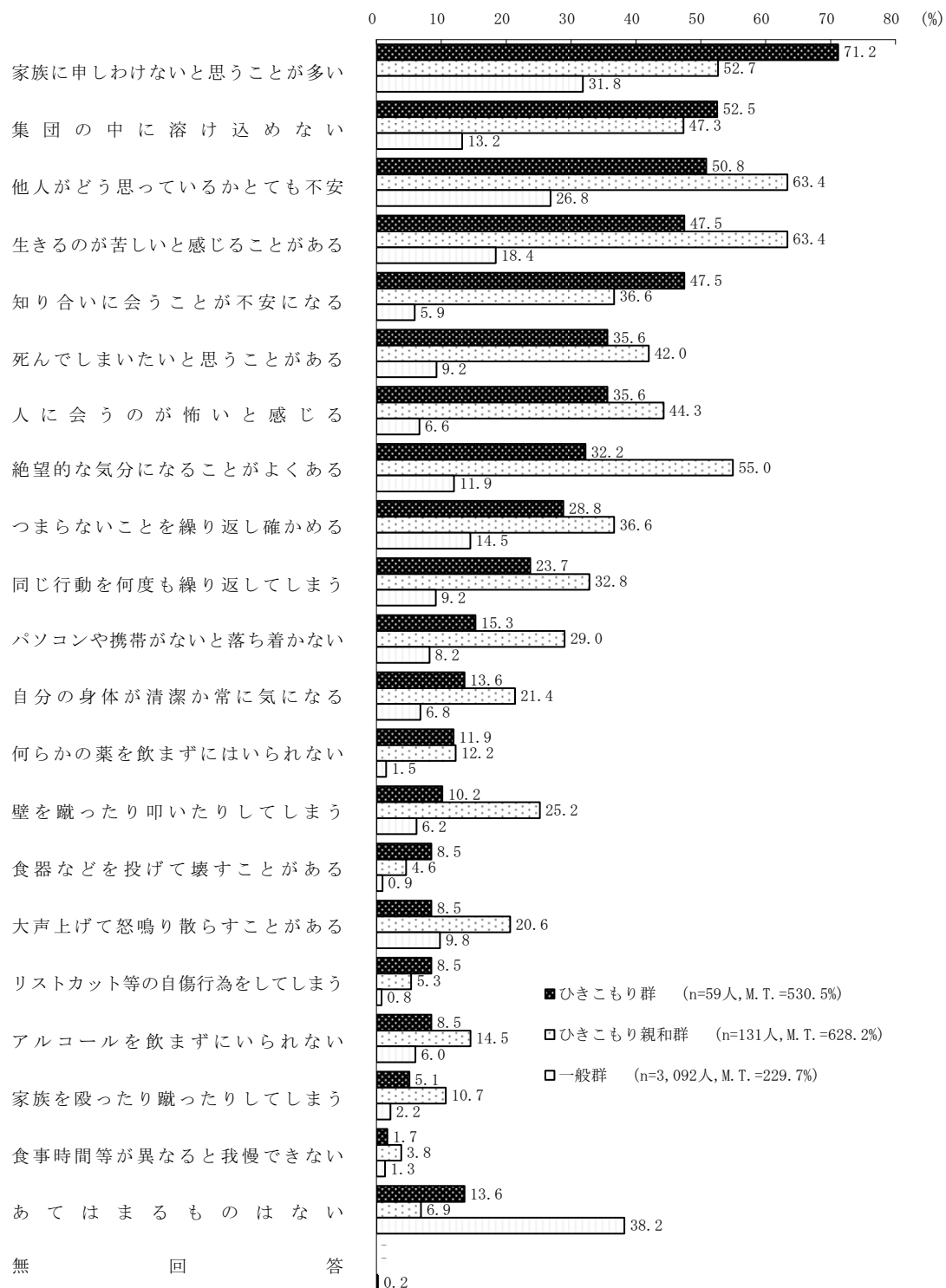
Q27 14. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う



『理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では67.8%、一般群では58.9%であった。

30 不安要素についてあてはまること

Q28 次にあげられたことの中で、あなた自身にあてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



不安などの項目であてはまるものを聞いたところ、ひきこもり群では、「家族に申し訳ないと思うことが多い」をあげた者が71.2%と最も多く、以下、「集団の中に溶け込めない」(52.5%)、「他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる」(50.8%)、「生きるのが苦しいと感じること

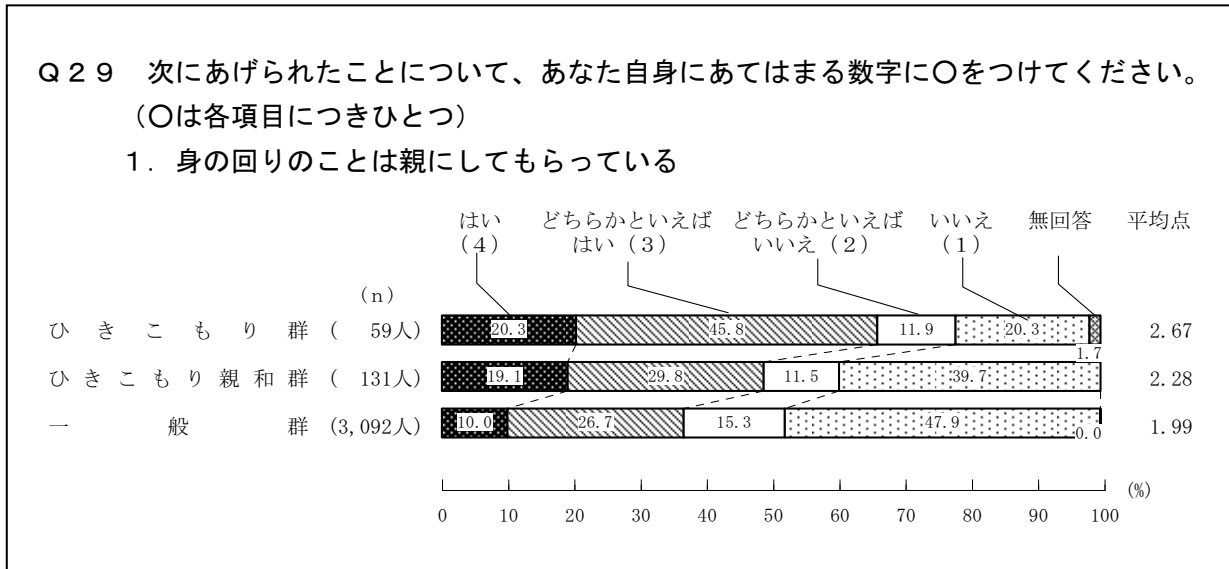
がある」「知り合いに会うことを考えると不安になる」(47.5%)となっていた。

ひきこもり親和群では、「他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる」(63.9%)、「生きるのが苦しいと感じることがある」(63.4%)をあげる者が多く、次いで「絶望的な気分になることがよくある」(55.0%)、「家族に申し訳ないと思うことが多い」(51.6%)となっていた。

一般群では「あてはまるものはない」が最も多く(38.2%)、『ひきこもり群』、『ひきこもり親和群』と比べ、不安なことをあげる者が少なくなっていた。

3.1 ふだんの生活態度

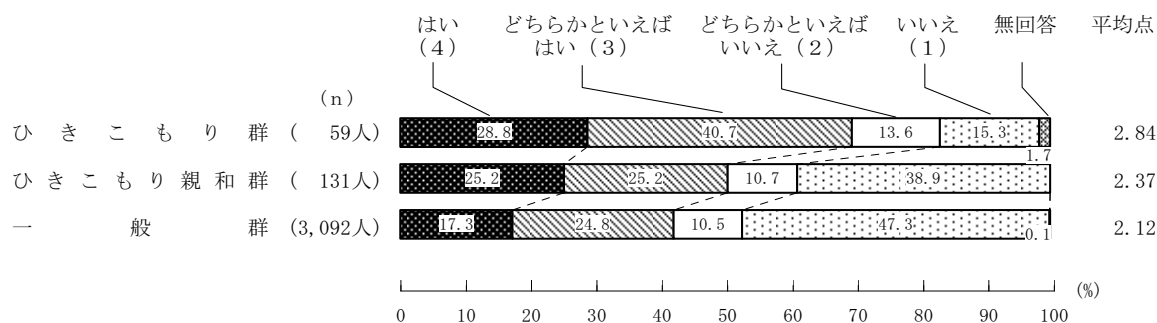
あなた自身にあてはまるかどうか12項目について聞いた。



『身の回りのことは親にしてもらっている』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では66.1%、ひきこもり親和群では48.9%、一般群では36.7%であった。

ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群と比較して、身の回りのことを親に頼る傾向が高かった。

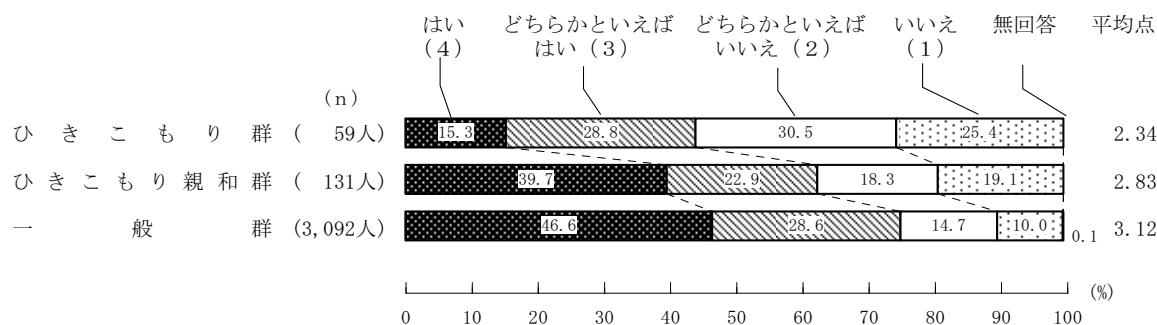
Q29 2. 食事や掃除は親まかせである



『食事や掃除は親まかせである』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では69.5%、ひきこもり親和群では50.4%、一般群では42.1%であった。

ひきこもり群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて、食事や掃除などの家事を親にしてもらうことが多かった。

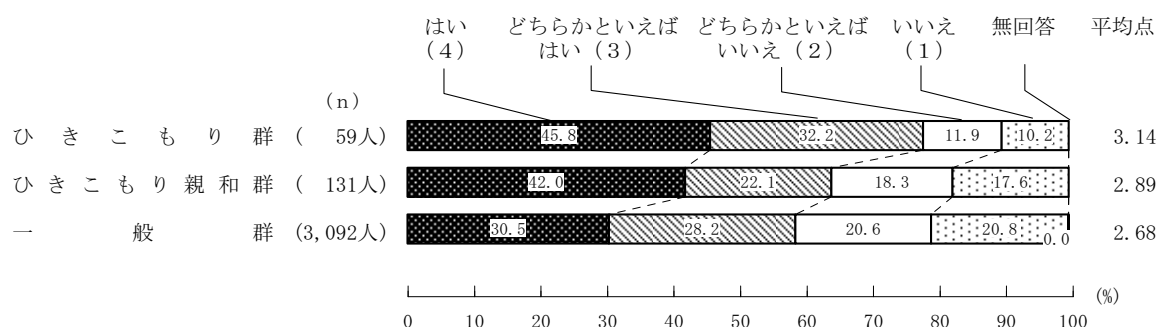
Q29 3. 朝、決まった時間に起きられる



『朝、決まった時間に起きられる』について聞いたところ、「いいえ」又は「どちらかといえばいいえ」と答えた者は、ひきこもり群では55.9%、ひきこもり親和群では37.4%、一般群では24.7%であった。

ひきこもり群は、毎日決まった時間に起床する習慣をもつ傾向が3群の中で最も低く、次いでひきこもり親和群が低かった。

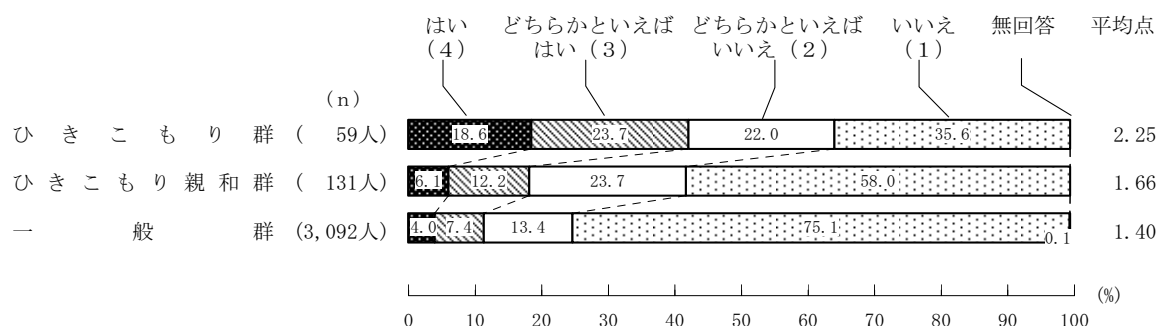
Q29 4. 深夜まで起きていることが多い



『深夜まで起きていることが多い』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では78.0%、ひきこもり親和群では64.1%、一般群では58.7%であった。

ひきこもり群は、一般群に比べて、深夜まで起きていることが多かった。

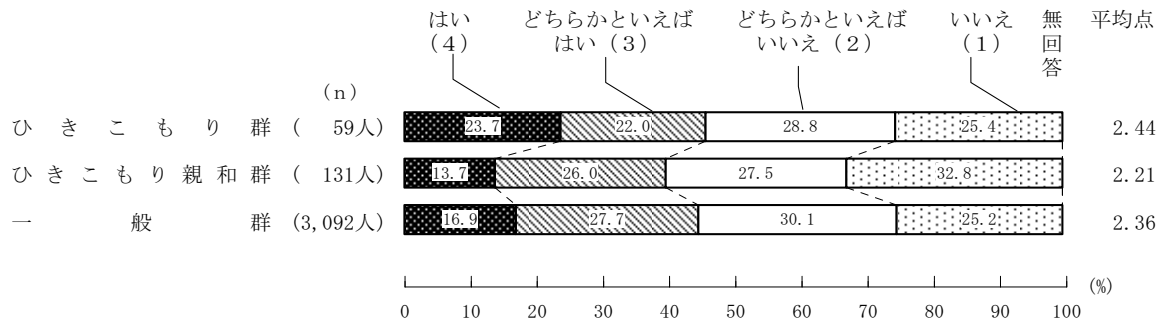
Q29 5. 昼夜逆転の生活をしている



『昼夜逆転の生活をしている』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では42.3%、ひきこもり親和群では18.3%、一般群では11.4%であった。

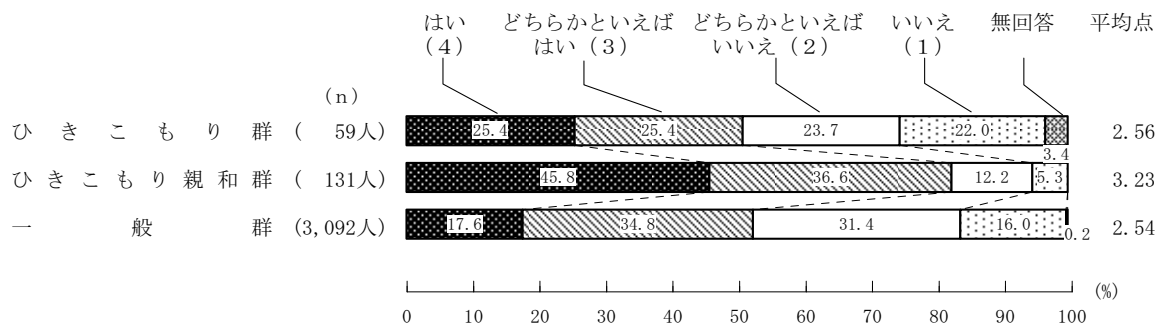
ひきこもり群は、昼夜逆転の生活スタイルをとることが3群の中で最も多く、次いでひきこもり親和群が多かった。

Q29 6. 新聞の政治や経済・社会報道によく目を通す



『新聞の政治や経済・社会報道によく目を通す』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では45.7%、ひきこもり親和群では39.7%、一般群では44.6%で、ひきこもり親和群でやや少なくなっていた。

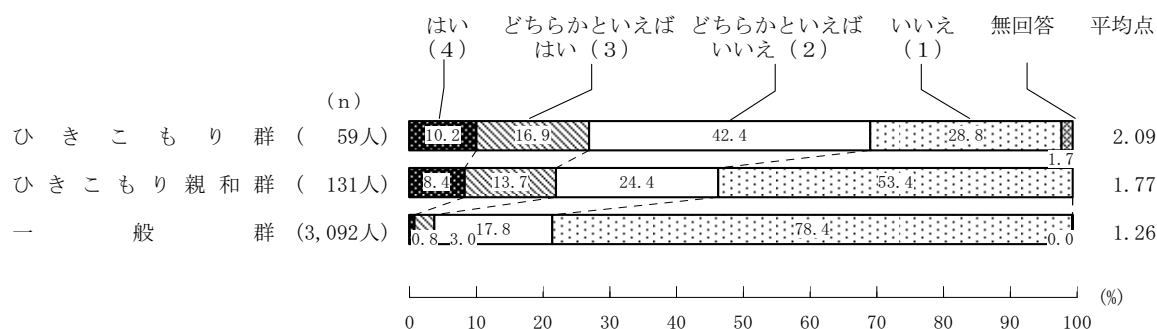
Q29 7. 自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある



『自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では50.8%、ひきこもり親和群では82.4%、一般群では52.4%で、ひきこもり親和群で多くなっていた。

ひきこもり親和群は、ひきこもり群や一般群と比較して、自分の周囲の事象に対して理不尽であると不満を抱く傾向が高かった。

Q29 8. 誰とも口を利かずに過ごす日が多い



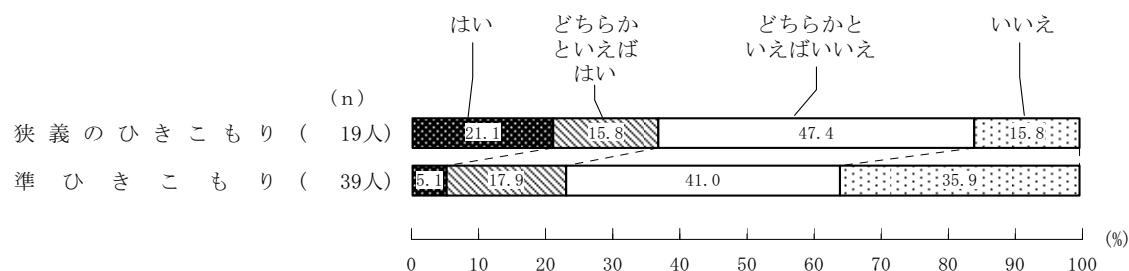
『誰とも口を利かずに過ごす日が多い』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では27.1%、ひきこもり親和群では22.1%、一般群では3.8%であった。

ひきこもり群は、日常生活において誰とも口を利かずに過ごす傾向が3群の中で最も高く、それに次いでひきこもり親和群が高かった。

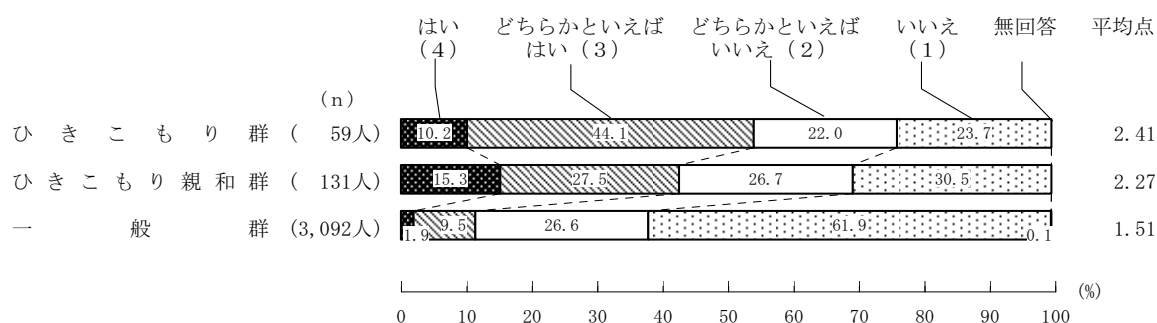
(参考)

ここで、「準ひきこもり」と「狭義のひきこもり」を比べると、「狭義のひきこもり」の方が誰とも口を利かずに過ごす傾向はあるものの、「狭義のひきこもり」も「準ひきこもり」も、「誰とも口を利かずに過ごす日が多い」で「はい」や「どちらかといえばはい」を選択した者は必ずしも多くはなかった。しかし、本調査では具体的に口を利く相手が誰であるかまでは分からない。

本調査では、家から外出をしないことをひきこもりの主な定義としており、他者との会話のなさなどを定義の要件にしていない。他の項目の結果(53ページ参照)を見ても、本調査のひきこもり群の54.2%は「家族とよく話す」と回答している。



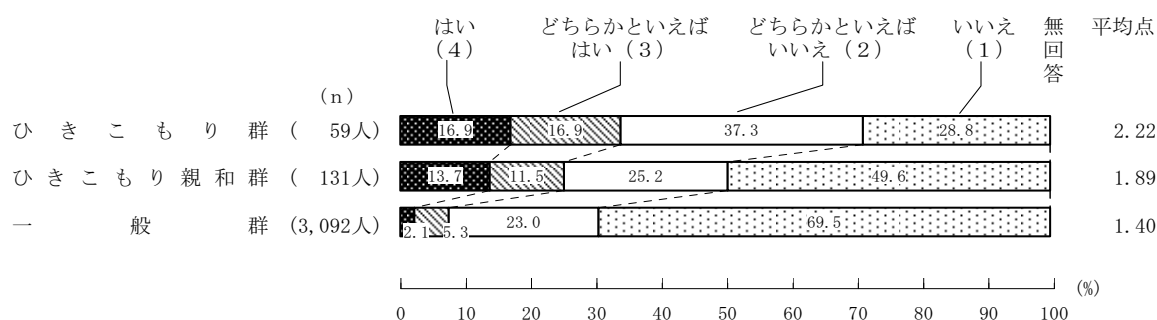
Q29 9. 人と会話をするのはわずらわしい



『人と会話をするのはわずらわしい』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では54.3%、ひきこもり親和群では42.8%、一般群では11.4%であった。

ひきこもり群やひきこもり親和群は、一般群よりも、人との会話を面倒なものと感じる傾向が高かった。

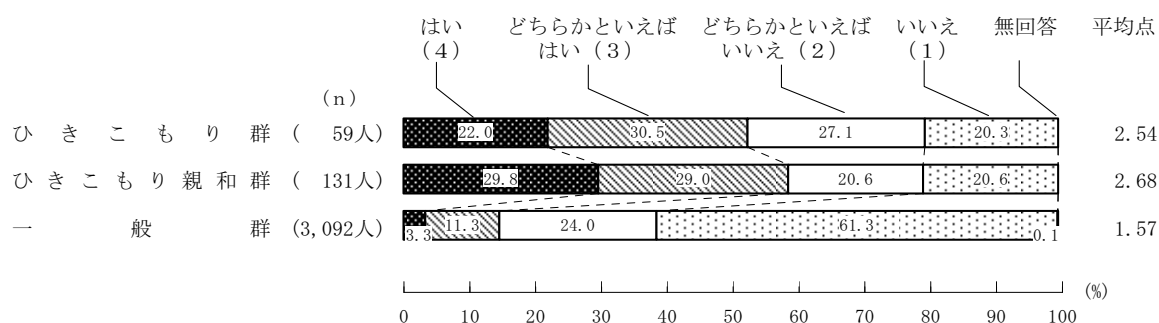
Q29 10. 過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない



『過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では33.8%、ひきこもり親和群では25.2%、一般群では7.4%であった。

ひきこもり群は、知り合いを信頼できないと感じる傾向が3群の中で最も高く、次いでひきこもり親和群が高くなっていた。

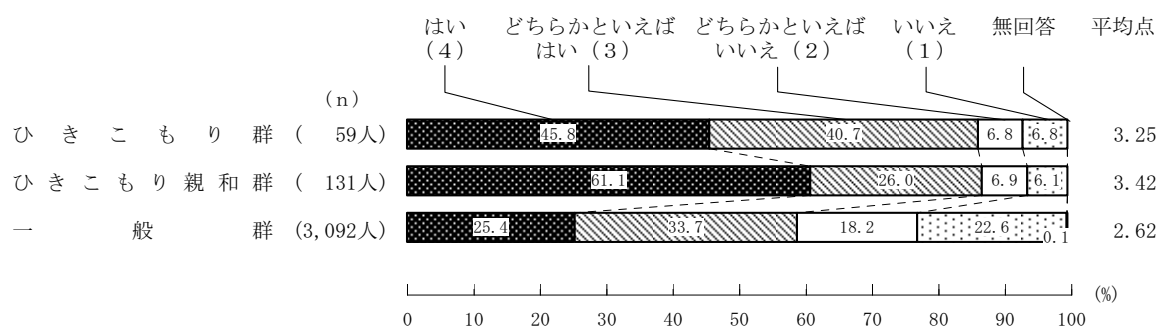
Q29 11. 自分の精神状態は健康ではないと思う



『自分の精神状態は健康ではないと思う』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では52.5%、ひきこもり親和群では58.8%、一般群では14.6%で、一般群で少なくなっていた。

ひきこもり親和群とひきこもり群は、一般群と比べて、自身の精神状態を健康ではないと感じる傾向が高かった。

Q29 12. 自分の今の状態について考えることがよくある

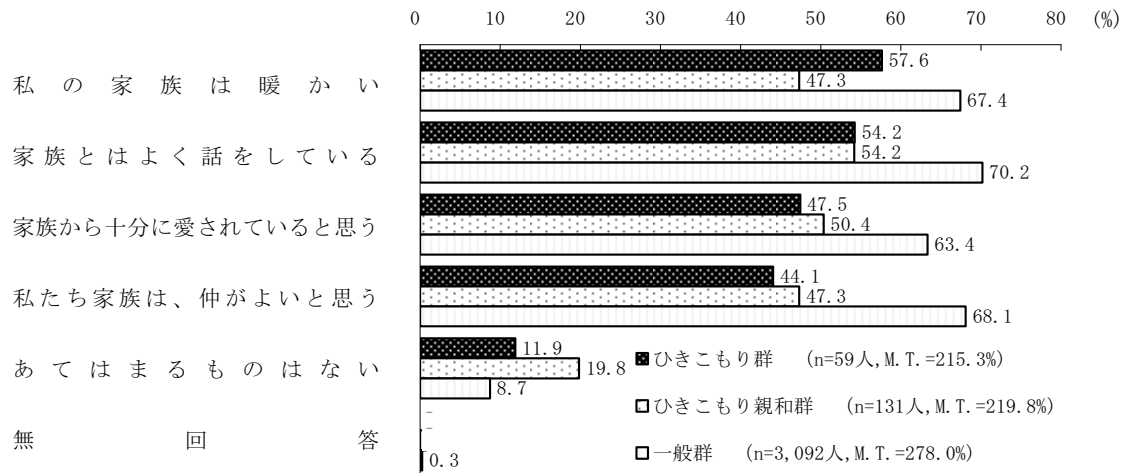


『自分の今の状態について考えることがよくある』について聞いたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた者は、ひきこもり群では86.5%、ひきこもり親和群では87.1%、一般群では59.1%で、一般群で少なくなっていた。

ひきこもり親和群とひきこもり群は、一般群と比較して、現在の自分自身の状態について考えることが多かった。

3 2 家庭の状況

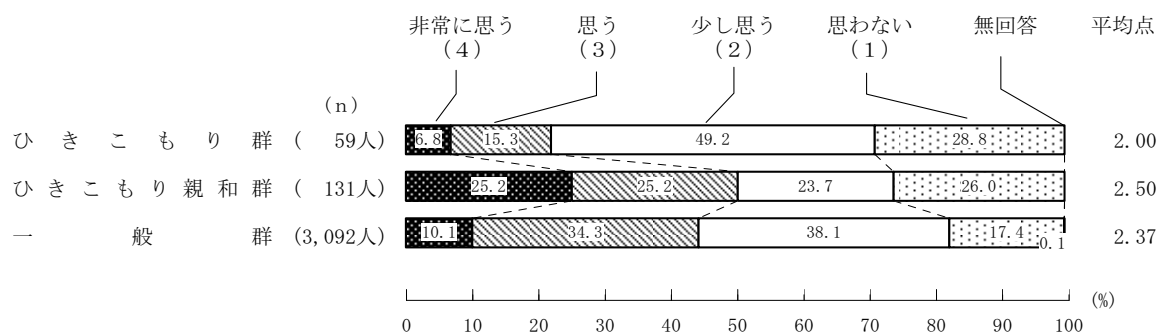
Q 3 0 次にあげられたことは、あなたのご家族にどのくらいあてはまりますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



家族についてあてはまることについて聞いたところ、いずれの項目も、一般群で7割近くがあてはまるとしているが、ひきこもり群、ひきこもり親和群では10ポイント以上低くなっていた。「あてはまるものはない」は、ひきこもり親和群で19.8%と最も多くなっていた。

3 3 悩みを誰かに相談したいか

Q 3 1 あなたはふだん悩み事を誰かに相談したいと思いますか。(○はひとつだけ)

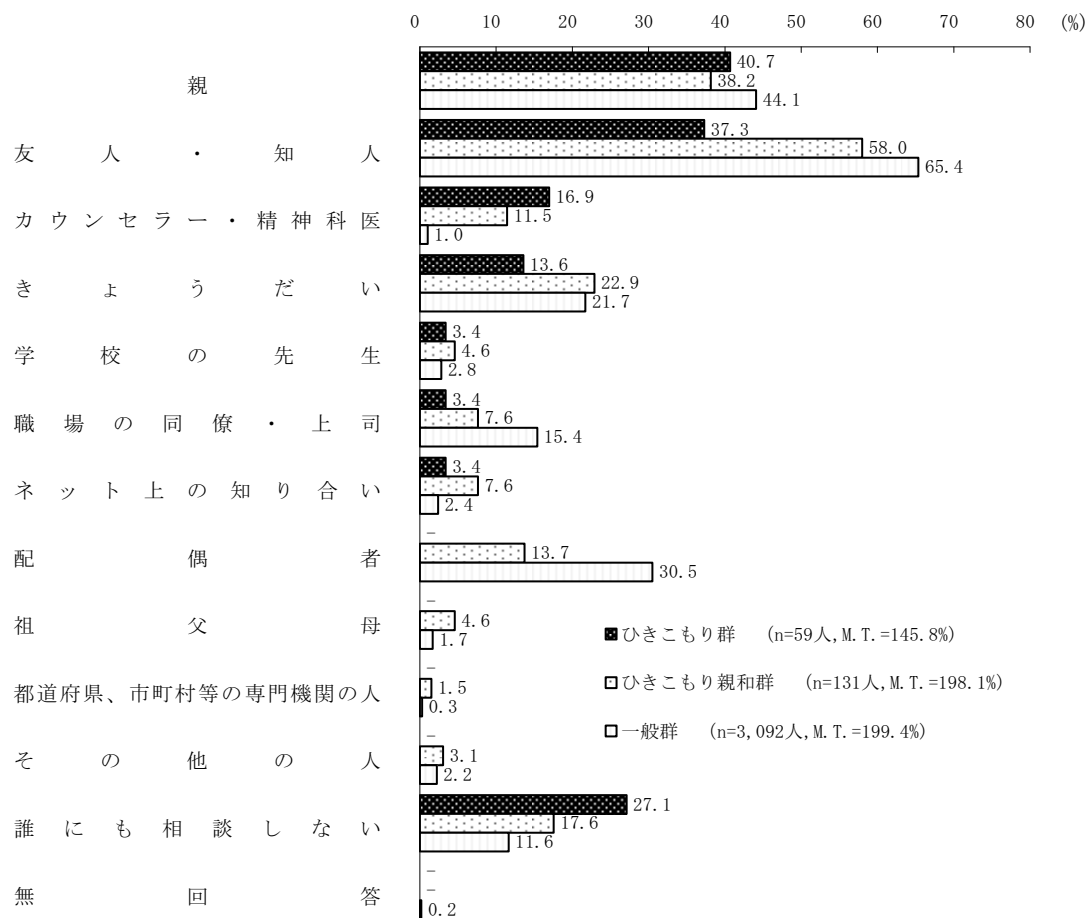


悩みを誰かに相談したいかどうかについて聞いたところ、ひきこもり群では「非常に思う」又は「思う」をあげた者は22.1%と少なく、ひきこもり親和群では50.4%と最も多くなっていた。

ひきこもり群は、「非常に思う」と「思う」を合わせると22.0%の者が悩みを誰かに相談したいと思っていた。ひきこもり親和群は、「非常に思う」と「思う」を合わせると50.4%に達しており、悩みを相談したいと思う傾向が3つの群の中では比較的高かった。

3 4 悩みを相談する相手

Q 3 2 あなたはふだん悩み事を誰に相談しますか。(〇はいくつでも)



悩みを相談する相手について聞いたところ、一般群、ひきこもり親和群は最も多かったのが、「友人・知人」(65.4%、58.0%)で、次いで「親」(44.1%、38.2%)であったが、ひきこもり群では「親」が最も多く40.7%、次いで「友人・知人」(37.3%)の順であったが、「誰にも相談しない」も27.1%と3番目に多かった。

ひきこもり群は、ひきこもり親和群や一般群と比べて、「友人・知人」(37.3%)が少なく、「誰にも相談しない」(27.1%)が多かった。ひきこもり親和群は、他の2群よりも「ネット上の知り合い」(7.6%)や「祖父母」(4.6%)が多かった。また、ひきこもり群、ひきこもり親和群ともに、一般群よりも「配偶者」(ひきこもり群0.0%、ひきこもり親和群13.7%)、「職場の同僚・上司」(ひきこもり群3.4%、ひきこもり親和群7.6%)が少なく、「カウンセラー・精神科医」(ひきこもり群16.9%、ひきこもり親和群11.5%)を相談相手とすることが多かった。

3.5 対人関係と精神症状に関する変数の分析

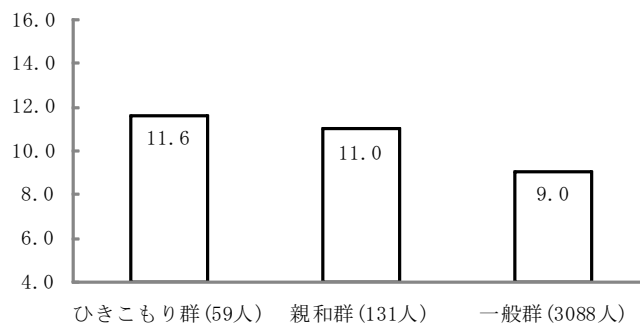
ひきこもり群、ひきこもり親和群、一般群の対人関係や精神症状について比較するために、対人関係の苦手意識、うつ・罪悪感、対人恐怖、強迫、暴力、依存、家族との情緒的絆について以下の分析を実施した。

(1) 対人関係の苦手意識

Q27の項目のうち、下に示した4項目の合計点を「対人関係の苦手意識」得点とした（調査実施の際の選択肢は、「1. はい」「2. どちらかといえばはい」「3. どちらかといえばいいえ」「4. いいえ」であったが、得点が高いほど「対人関係の苦手意識」が高いことを示すように、「1. はい」は4点とといった逆転処理を行なった上で合計した（逆転項目については質問の意味が逆転しているため、「1. はい」は1点とといった処理を行った上で合計した）。可能な得点範囲は4点から16点である。

対人関係の苦手意識

- 「Q27 5. 初対面の人とすぐに会話できる自信がある（逆転項目）」
- 「Q27 6. 人づきあいが不器用なのではないかと悩む」
- 「Q27 7. 自分の感情を表に出すのが苦手だ」
- 「Q27 8. 周りの人ともめごとが起こったとき解決方法がわからない」



3群の「対人関係の苦手意識」得点を比較したところ、ひきこもり群（11.6）とひきこもり親和群（11.0）は、一般群（9.0）と比較して対人関係の苦手意識が高いことが明らかとなった。

(2) うつ・罪悪感

Q28の項目の中で、「うつ・罪悪感」の症状を示す以下の4項目のうち、それぞれの回答者が何個選択しているかを算出した。可能な選択個数は0個から4個である。

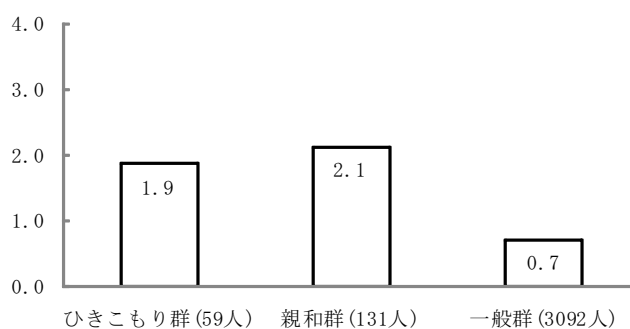
うつ・罪悪感項目の選択個数

「Q28 1. 家族に申しわけないと思うことが多い」

「Q28 2. 生きるのが苦しいと感ずることがある」

「Q28 3. 死んでしまいたいと思うことがある」

「Q28 4. 絶望的な気分になることがよくある」



3群の「うつ・罪悪感」項目の選択数を比較したところ、ひきこもり親和群は平均2.1個、ひきこもり群は平均1.9個の項目を選択しており、両者とも一般群（0.7個）より選択数が多かった。したがって、ひきこもり群と親和群は、その他の人よりも、うつや罪悪感の症状を抱える傾向があることが示された。

(3) 対人恐怖

Q28の項目の中で、「対人恐怖」の症状を示す以下の4項目のうち、それぞれの回答者が何個選択しているかを算出した。可能な選択個数は0個から4個である。

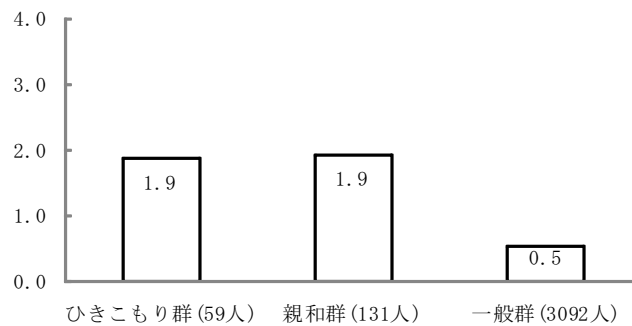
対人恐怖項目の選択個数

「Q28 5. 人に会うのが怖いと感じる」

「Q28 6. 知り合いに会うことを考えると不安になる」

「Q28 7. 他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる」

「Q28 8. 集団の中に溶け込めない」



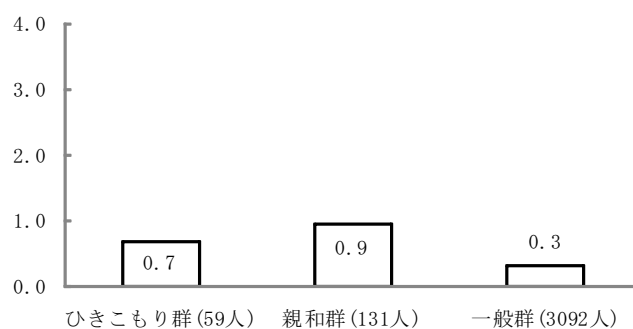
3群の「対人恐怖」項目の選択数を比較したところ、ひきこもり群は平均1.9個、ひきこもり親和群は平均1.9個の項目を選択しており、両者とも一般群(0.5個)より選択数が多かった。したがって、ひきこもり群とひきこもり親和群はともに他の人よりも対人恐怖の症状を有していることが明らかになった。

(4) 強迫

Q 2 8 の項目の中で、「強迫」の症状を示す以下の 4 項目のうち、それぞれの回答者が何個選択しているかを算出した。可能な選択個数は 0 個から 4 個である。

強迫項目の選択個数

- 「Q 2 8 9. つまらないことを繰り返し確かめてしまう」
- 「Q 2 8 10. 同じ行動を何度も繰り返してしまう」
- 「Q 2 8 11. 食事や入浴の時間がいつもと少しでも異なると我慢できない」
- 「Q 2 8 12. 自分の身体が清潔かどうか常に気になる」



3 群の「強迫」項目の選択数を比較したところ、ひきこもり親和群 (0.9 個)、ひきこもり群 (0.7 個)、一般群 (0.3 個) の順に多かった。ひきこもり親和群がもっとも強迫の症状を抱える傾向があることが示された。

(5) 暴力

Q28の項目の中で、「暴力」の症状を示す以下の4項目のうち、それぞれの回答者が何個選択しているかを算出した。可能な選択個数は0個から4個である。

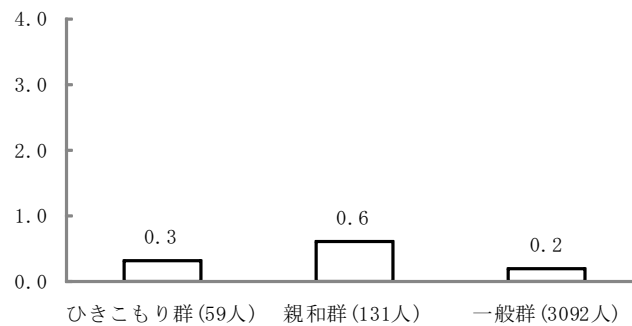
暴力項目の選択個数

「Q28 13. 家族を殴ったり蹴ったりしてしまうことがある」

「Q28 14. 壁や窓を蹴ったりたたいたりしてしまうことがある」

「Q28 15. 食器などを投げて壊すことがある」

「Q28 16. 大声を上げて怒鳴り散らすことがある」



3群の「暴力」項目の選択数を比較したところ、ひきこもり親和群は0.6個を選択しており、ひきこもり群（0.3個）や一般群（0.2個）よりも多かった。ひきこもり親和群がもっとも暴力の症状を抱えており、ひきこもり群の暴力の傾向には一般群と大きな差が見られないことが示された。

(6) 依存

Q28の項目の中で、「依存」の症状を示す以下の4項目のうち、それぞれの回答者が何個選択しているかを算出した。可能な選択個数は0個から4個である。

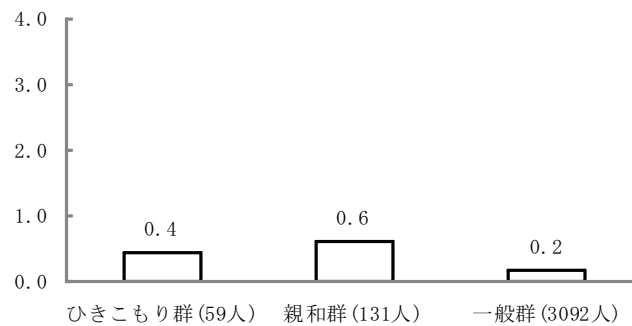
依存項目の選択個数

「Q28 17. リストカットなどの自傷行為をしてしまうことがある」

「Q28 18. アルコールを飲まずにはいられないことがある」

「Q28 19. 何らかの薬を飲まずにはいられないことがある」

「Q28 20. パソコンや携帯電話がないと一時も落ち着かない」



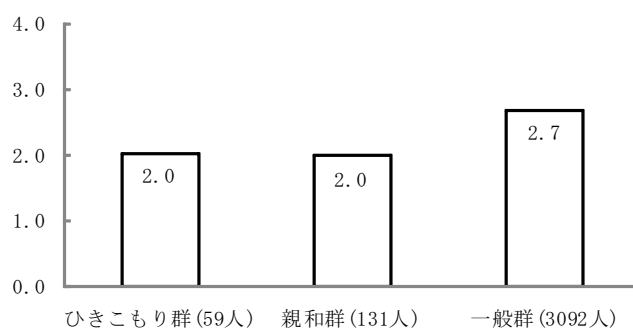
3群の「依存」項目の選択数を比較したところ、ひきこもり群は平均0.4個、ひきこもり親和群は平均0.6個の項目を選択しており、両者とも一般群(0.2個)より選択数が多かった。したがって、ひきこもり群とひきこもり親和群はともに依存の症状を抱えやすいことが明らかになった。

(7) 家族との情緒的絆

Q30の「家族との情緒的絆」を示す以下の4項目のうち、それぞれの回答者が何個選択しているかを算出した。可能な選択個数は0個から4個である。

家族との情緒的絆項目の選択個数

- 「1. 私の家族は暖かい」
- 「2. 家族とはよく話をしている」
- 「3. 私たち家族は、仲がよいと思う」
- 「4. 家族から十分に愛されていると思う」



3群の「家族との情緒的絆」項目の選択数を比較したところ、ひきこもり群は平均2.0個、ひきこもり親和群は平均2.0個の項目を選択しており、両者とも一般群(2.7個)より選択数が少なかった。したがって、ひきこもり群とひきこもり親和群はともに、その他の人よりも家族との情緒的な関係性が弱いと考えられる。

3.6 現在の状態になったきっかけによる比較

ひきこもりになったきっかけによる違いを検討するために、Q23「現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)」の回答を基準として、ひきこもり群 59 名をさらに 3 つの下位群に分類した。

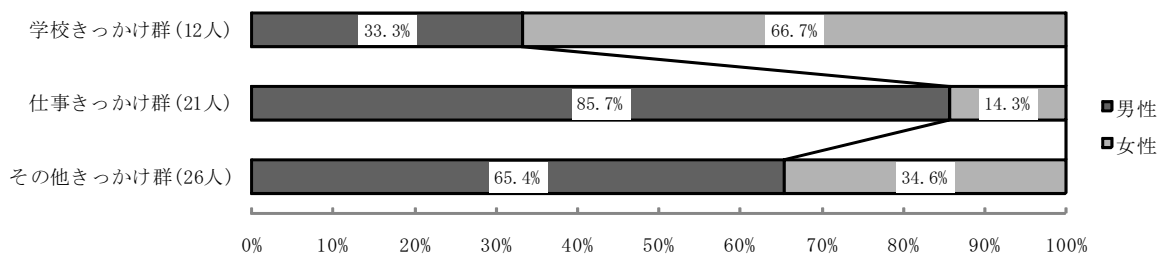
Q 2 3 「現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)」において、「1. 不登校」「2. 大学になじめなかった」「3. 受験に失敗した」を選択している場合を「学校きっかけ」、「4. 就職活動がうまくいかなかった」「5. 職場になじめなかった」のいずれかを選択している場合を「仕事きっかけ」とした。

「学校きっかけ」と「仕事きっかけ」のクロス集計表

		仕事きっかけ		
		なし	あり	合計
学校 き っ か け	なし	26 55.3%	21 44.7%	47 100.0%
	あり	9 75.0%	3 25.0%	12 100.0%
合計		35 59.3%	24 40.7%	59 100.0%

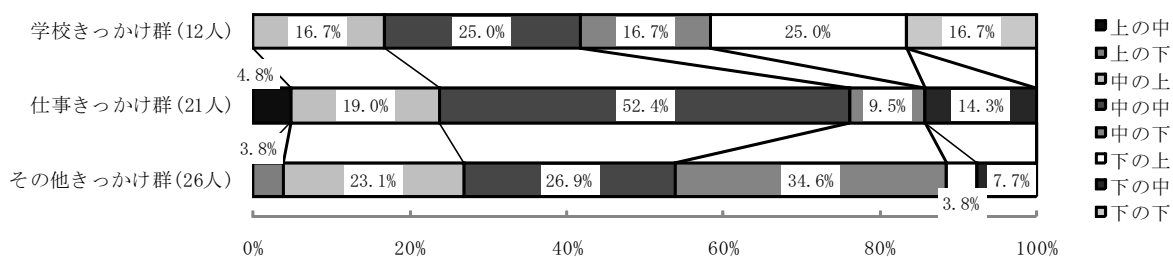
「学校きっかけ」は「仕事きっかけ」よりも時間的に先行するきっかけであると考えられる。そのため、「学校きっかけ」を選択した者を「仕事きっかけ」の有無にかかわらず、「学校きっかけ群」(12 人)とした。「仕事きっかけ」を選択した者から「学校きっかけ」を選択した者を除き、「仕事きっかけ群」(21 人)とした。「学校きっかけ」と「仕事きっかけ」のいずれも選択していないものを「その他きっかけ群」(26 人)とした。

Q1 あなたの性別をお答えください。(〇はひとつだけ)



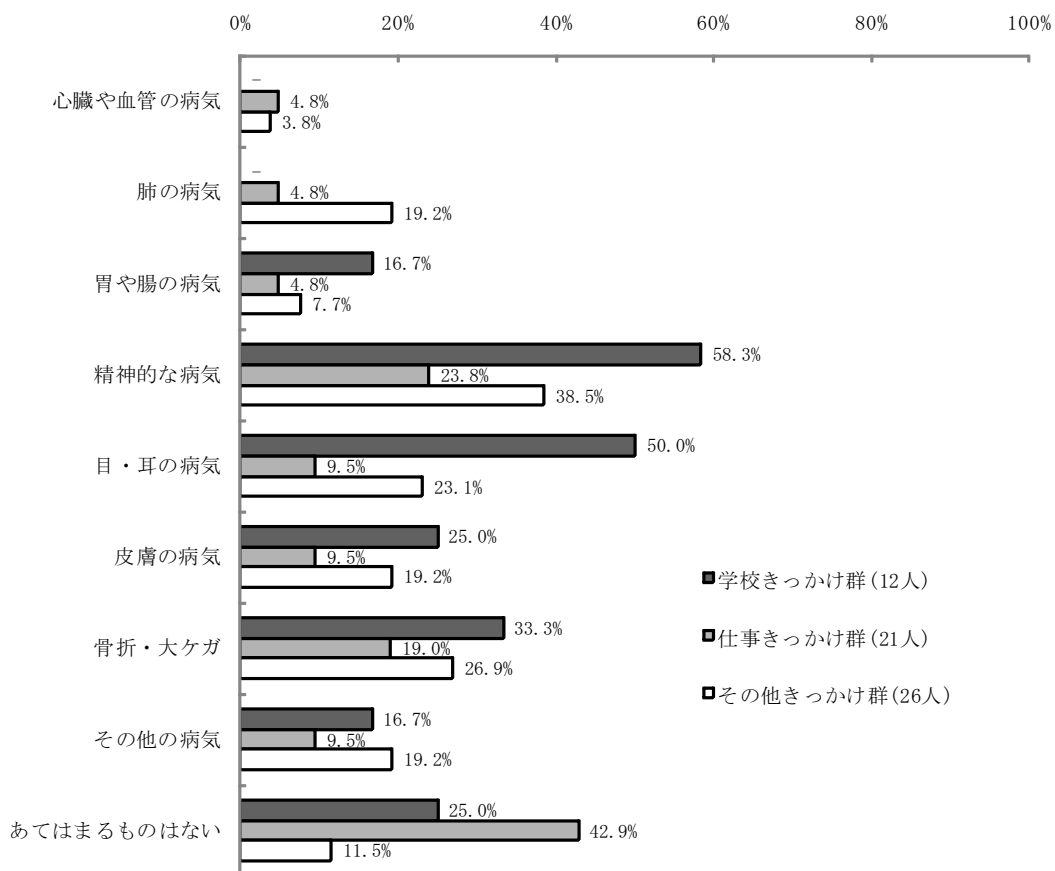
学校きっかけ群は女性（66.7%）が多く、仕事きっかけ群は男性（85.7%）が多かった。

Q6 あなた家の暮らし向き（衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準）は、世間一般と比べてみて、上の上から下の下までのどれにあたると思われますか。あなたの実感でお答えください。(〇はひとつだけ)



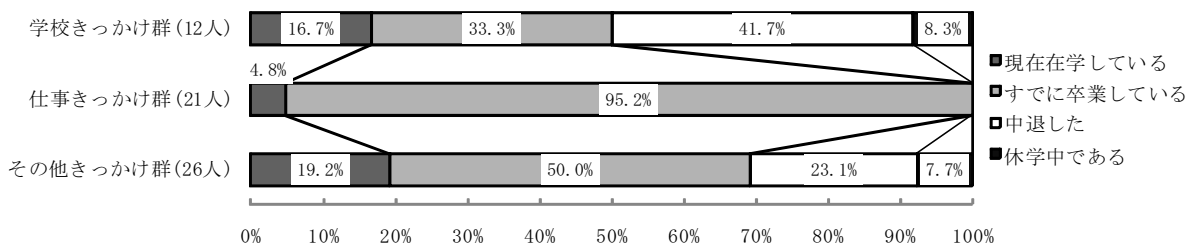
学校きっかけ群は、「下の上」（25.0%）と「下の下」（16.7%）が多く、全体に生活水準が低い傾向が見られた。仕事きっかけ群は「中の中」（52.4%）が多く、その他きっかけ群は「中の下」（34.6%）が多かった。

Q8 これまでに以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。通院・入院したことのある病気に○をつけてください。(○はいくつでも)



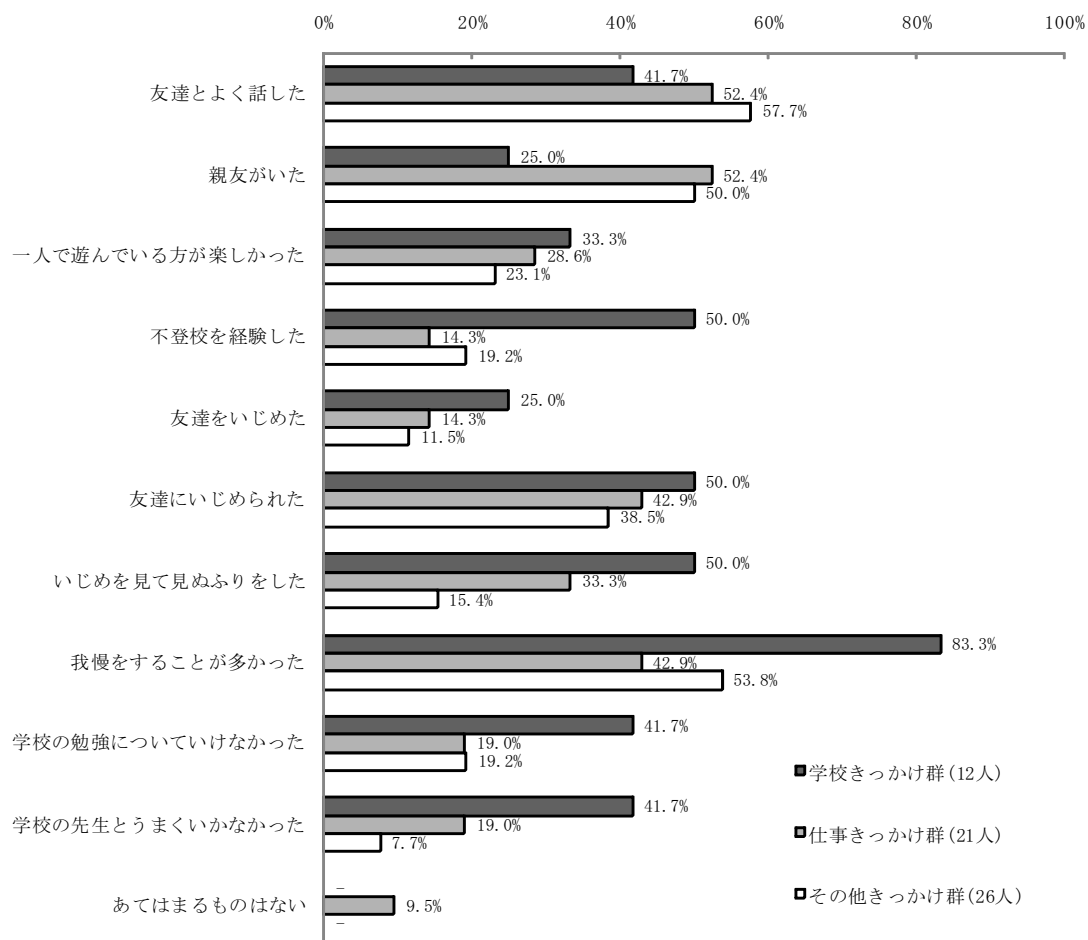
「精神的な病気」はどの群でも多く選択されているが、その中でも学校きっかけ群でやや多い傾向がある。学校きっかけ群は「目・耳の病気」(50.0%)が多かった。仕事きっかけ群は「あてはまるものはない」を選択するものが多く(42.9%)、その他きっかけ群は少なかった(11.5%)。

Q9 あなたは現在学校に通っていますか。(○はひとつだけ)



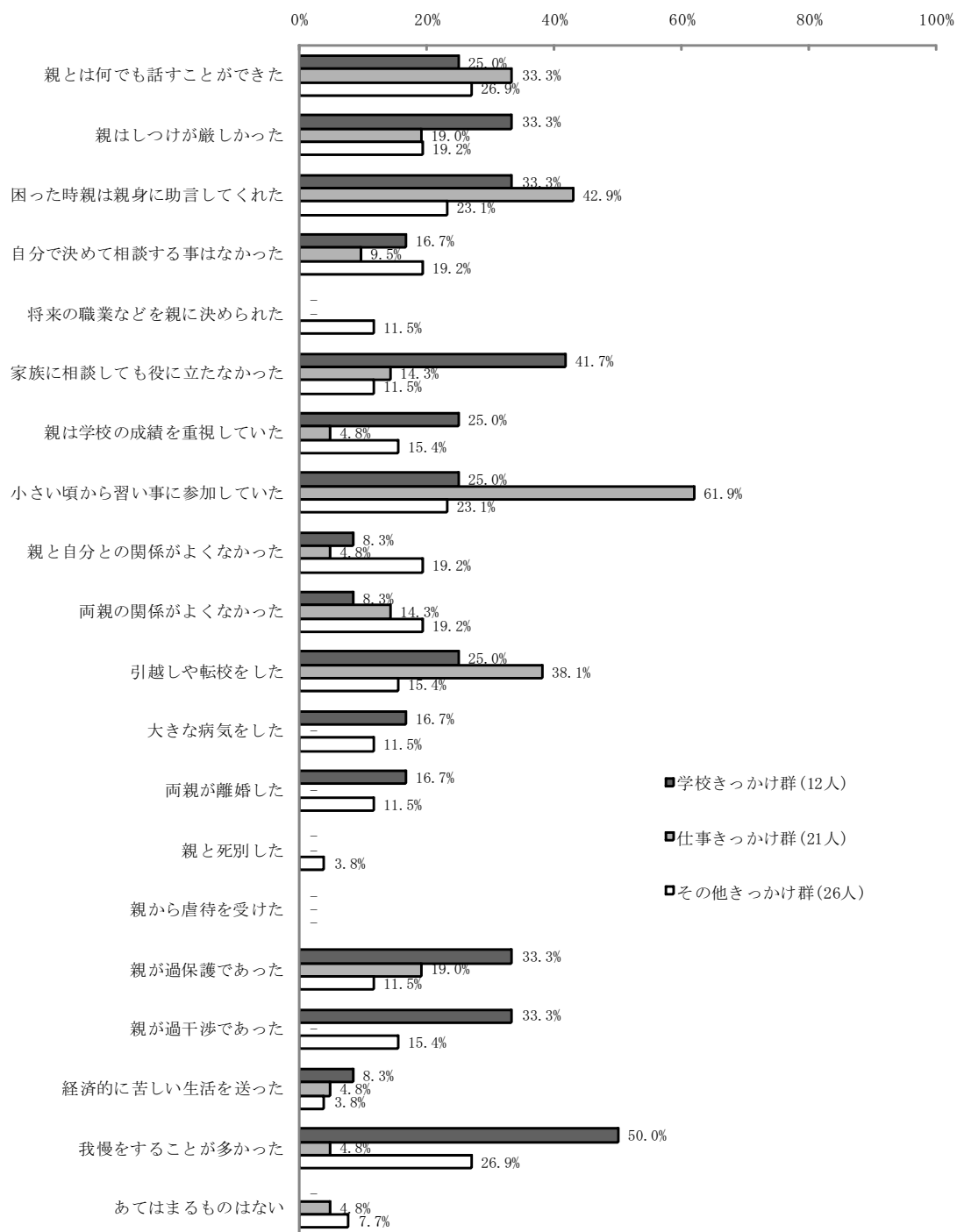
学校きっかけ群は「中退した」(41.7%)が多く、仕事きっかけ群はほとんどが「すでに卒業している」(95.2%)と回答していた。

Q11 あなたは小学校や中学校の頃に、学校で次のようなことを経験したことがありますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



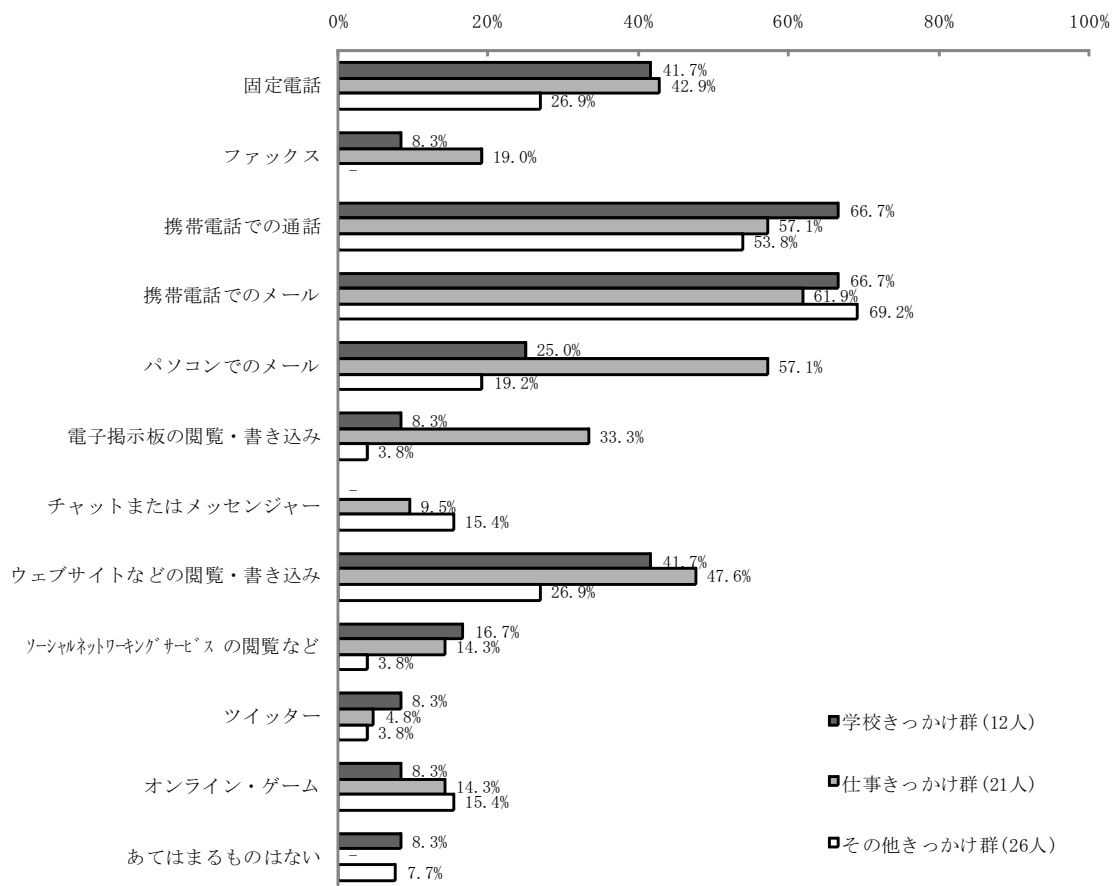
学校きっかけ群は、「不登校を経験した」(50.0%)や「我慢をすることが多かった」(83.3%)、「先生とうまくいけなかった」(41.7%)を多く選択しており、小中学校時代に学校において不適応的な経験をしていたと推測される。

Q12 あなたは小学校や中学校の頃に、家庭で次のようなことを経験したことがありますか。
 あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



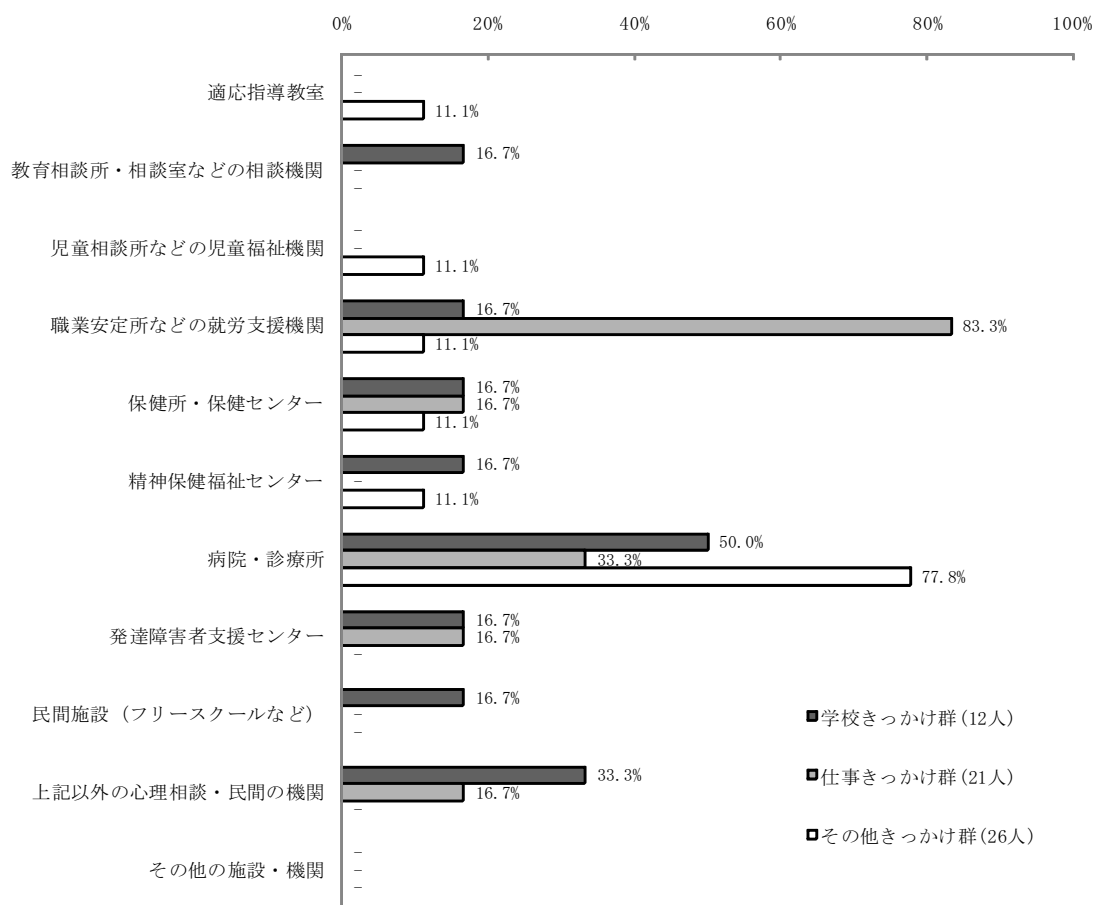
学校きっかけ群は、「家族に相談しても役に立たなかった」(41.7%)、「親が過干渉であった」(33.3%)、「我慢をすることが多かった」(50.0%)を多く選択しており、他の2群と比較して小中学校時代に家庭内で否定的な経験をしていたとみられる。仕事きっかけ群は、「小さい頃から習い事に参加していた」(61.9%)が多かった。

Q19 以下に挙げられた通信手段の中で、ふだん利用しているものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



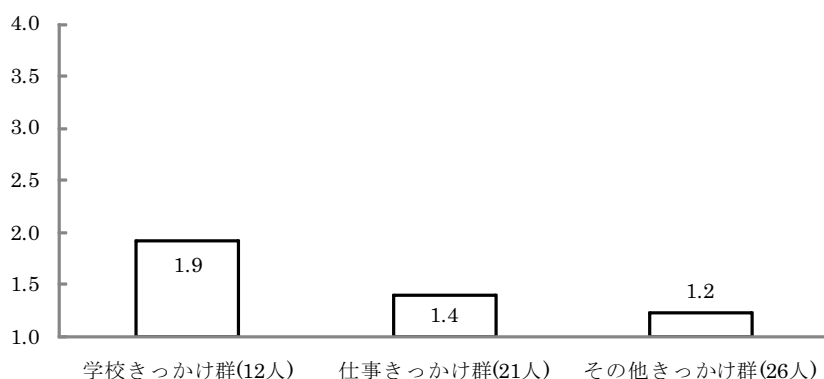
仕事きかけ群は、「ファックス」(19.0%)、「パソコンでのメール」(57.1%)、「電子掲示板の閲覧・書き込み」(33.3%)を他の2群より多く選択おり、比較的幅広い通信手段を利用している。

SQ26_1 どのような相談機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。(○はいくつでも)



仕事きつかけ群の 83.3%は「職業安定所などの就労支援機関」に相談した経験を持っている。これに対して、学校きつかけ群の 50.0%、その他きつかけ群の 77.8%は「病院・診療所」に相談経験を持っている。ひきこもりのきつかけによって、相談した機関が異なることが示された。

Q27 2. 私は他に並ぶ人がいないくらい、特別な存在である



その他きっかけ群（1.2）は学校きっかけ群（1.9）よりも、自分は特別な存在であると感じる傾向が低かった。

Q28 依存の選択数

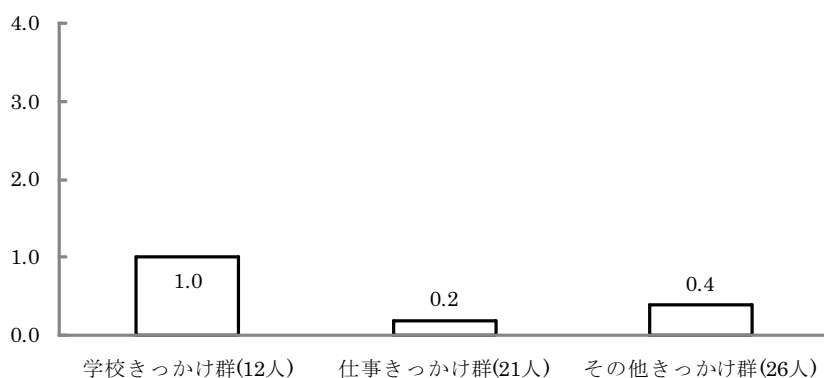
Q28の項目の中で依存の症状を表す以下の4項目の選択個数を算出し、「依存」の選択数とした。

「17. リストカットなどの自傷行為をしてしまうことがある」

「18. アルコールを飲まずにはいられないことがある」

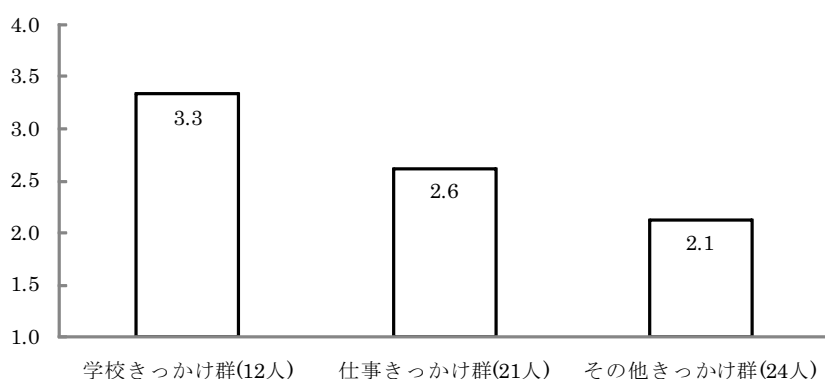
「19. 何らかの薬を飲まずにはいられないことがある」

「20. パソコンや携帯電話がないと一時も落ち着かない」



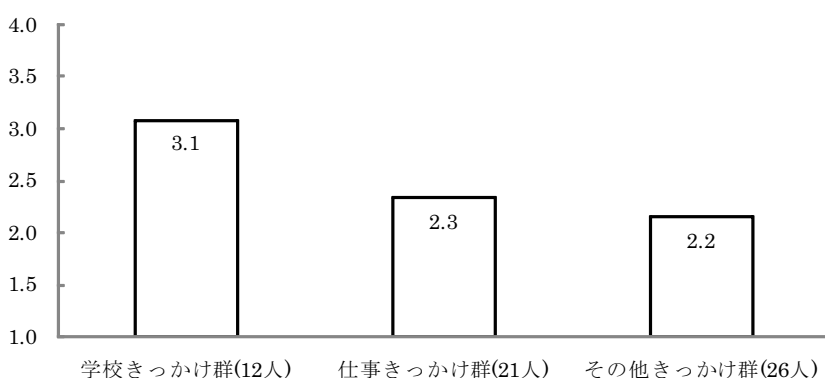
学校きっかけ群（1.0個）は、その他きっかけ群（0.4個）よりも「依存」項目を多く選択していた。学校きっかけ群は、その他のきっかけによってひきこもった人よりも、依存の症状を有しやすい傾向がある。

Q29 7. 自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある



学校きっかけ群 (3.3) はその他きっかけ群 (2.1) よりも、身の回りに理不尽なことが多いと感じる傾向が高かった。

Q29 9. 人と会話をするのはわずらわしい



学校きっかけ群 (3.1) はその他きっかけ群 (2.2) よりも、人と会話をするのをわずらわしく感じる傾向が高かった。

以上より、ひきこもり群の中でも、学校に関するきっかけによってひきこもった者は精神疾患を抱える傾向が他のきっかけによるひきこもりよりも多く、周囲に対する不満を持っていた。小中学校時代に家庭や学校で他者との関係がうまくいかずに我慢をすることが多かった。

仕事に関するきっかけによってひきこもった者は、他の2つの下位群に比べて精神疾患を有する傾向は低く、小中学校時代の親との関係も比較的良好であった。

3.7 相談したい機関の特徴と相談したことのある機関

相談したいと思う相談機関の特徴と実際に相談したことのある機関との関連を検討するために、Q25「現在の状態について、どのような機関なら、相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)」とSQ26_1「どのような相談機関に相談しましたか。相談したことのある機関に〇をつけてください。(〇はいくつでも)」に対する回答について分析した。

Q25とSQ26_1のクロス集計表 (主だった項目のみ)

Q25相談したい機関の特徴	SQ26_1相談したことのある機関			
		教育相談所・ 相談室などの 相談機関	児童相談所な どの児童福祉 機関	病院・診療所
医学的な助言をくれる	はい 17名	1名 (4.2%)	3名 (17.6%)	15名 (88.2%)
	いいえ24名	2名 (11.8%)	0名 (0.0%)	11名 (45.8%)
心理学の専門家がいる	はい 10名	3名 (30.0%)	3名 (30.0%)	7名 (70.0%)
	いいえ31名	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	19名 (61.3%)
精神科医がいる	はい 22名	2名 (9.1%)	3名 (13.6%)	17名 (77.3%)
	いいえ19名	1名 (5.3%)	0名 (0.0%)	9名 (47.4%)
無料で相談できる	はい 18名	2名 (11.1%)	3名 (16.7%)	11名 (61.1%)
	いいえ23名	1名 (4.3%)	0名 (0.0%)	15名 (65.2%)
自宅から近い	はい 17名	3名 (17.6%)	3名 (17.6%)	11名 (64.7%)
	いいえ24名	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	15名 (62.5%)

カッコ内は、「はい」または「いいえ」に該当する回答者の中での比率

「医学的な助言をくれる」ことを相談したい機関の特徴として選択した者は、選択しなかった者よりも「児童相談所などの児童福祉機関」(17.6%)や「病院・診療所」(88.2)での相談経験を持つことが多かった。「心理学の専門家がいる」ことを選択した者は、「教育相談所・相談室などの相談機関」(30.0%)や「児童相談所などの児童福祉機関」(30.0%)での相談経験を持つことが多かった。「精神科医がいる」ことを選択した者は、「病院・診療所」(77.3%)での相談経験を持つことが多かった。「無料で相談できる」ことを選択した者は、「児童相談所などの児童福祉機関」(16.7%)での相談経験を持つことが多かった。「自宅から近い」ことを選択した者は、「教育相談所・相談室などの相談機関」(17.6%)や「児童相談所などの児童福祉機関」(17.6%)での相談経験を持つことが多かった。

医学的なケアを受けたい場合は「病院・診療所」へ、心理学的なケアを受けたい場合は「教育相談所・相談室などの相談機関」や「児童相談所などの児童福祉機関」へ相談に訪れていることが示された。また、「児童相談所などの児童福祉機関」は無料で自宅から近いことも相談の理由になっている。他方、「病院・診療所」は相談したい機関の条件に関わらず、多くの者が相談した経験を持つことも明らかになった。